



2026

Nara Women's University

奈良女子大学 大学院案内

● 2025年度 秋季入学者 ● 2026年度 入学者

大学院人間文化総合科学研究科
博士前期課程・博士後期課程



奈良女子大学 入試課

〒630-8506 奈良市北魚屋西町

TEL.0742-20-3023

<https://www.nara-wu.ac.jp/>

Contents

大学院の紹介

- ①メッセージ（学長及び人間文化総合科学研究科長）…………… 1
- ②沿革・基本理念・目的…………… 2

大学院の教育・研究

- 博士前期課程…………… 5
- 専攻の概要…………… 6

人文社会学専攻、言語文化学専攻、人間科学専攻、食物栄養学専攻
心身健康学専攻、情報衣環境学専攻、住環境学専攻、生活文化学専攻
数物科学専攻、化学生物環境学専攻、修士課程工学専攻（仮称）

- 博士後期課程…………… 18
- 専攻の概要…………… 18

〔生活工学共同専攻、人文科学専攻、自然科学専攻、生活環境科学専攻〕

- 教員の研究領域…………… 24

キャリア形成・支援

- ①取得できる学位及び資格…………… 24
- ②単位互換制度…………… 25
- ③長期履修学生制度…………… 26
- ④再チャレンジ型女性研究者支援制度（博士後期課程）…………… 26
- ⑤博士前期課程修了者博士号取得支援制度（博士後期課程）…………… 27
- ⑥奈良女子大学次世代研究者育成プログラム
SGC-NEXUS（博士後期課程）…………… 27
- ⑦教育方法の特例制度…………… 27
- ⑧入学料・授業料免除及び奨学金…………… 27
- ⑨充実した博士後期課程学生への経済的支援…………… 28
- ⑩キャリア形成支援…………… 29
- ⑪学業・研究とライフイベントの両立、キャリア開発支援…………… 30
- ⑫修了者の進路…………… 31
- ⑬大学院修了者の主な就職先企業等名一覧…………… 32

- 学位取得者の論文題目一覧（2025年3月修了者）…………… 33

- 在学者・修了者の声…………… 33
- 入試情報…………… 35

1 メッセージ



奈良女子大学長 高田 将志

本学大学院は、令和2年度に博士後期課程の組織改編を行い、博士前期課程も含めて名称を「人間文化研究科」から「人間文化総合科学研究科」へと変更しました。そして「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」、「次世代研究者挑戦的研究プログラム」という2つの補助金事業に採択され、令和3年度から、博士後期課程入学者に対する経済的支援・キャリアパス支援事業がスタートしました。前述の2つの補助金事業は、令和6年度から新しい「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に統合され、本学ではこれをSGC-NEXUS(Shattering the Glass Ceiling - NEXUS)と呼んでリニューアルすることとなりました。本学のSGC-NEXUSプログラムでは、博士後期課程学生の経済的支援、修学・研究活動支援とともに、学位取得後のキャリアパスまでをサポートしています。

いわゆる理系の学問分野では、研究分野の専門性を生かしたキャリアパスの開拓に大学院博士前期課程への進学は欠かせません。その一方で、経済的な負担や学位取得後のキャリアパスへの不安から、博士後期課程への進学については必ずしも一般的ではありませんでした。しかし前述のような経済的支援、修学・研究活動支援、キャリアパス支援をセットにした事業により、大学院を取り巻く環境は、大きく変わりつつあります。また文理融合やいわゆる文系の学問分野でも、キャリアパスまでを見通したSGC-NEXUSのような事業は、博士前期～後期課程における修学・研究活動を希望する学生を強力にバックアップできる可能性があります。

本学大学院は、前述のSGC-NEXUS以外にも、博士前期課程、後期課程における各種の修学・研究支援制度の充実化をはかってきました。詳しくは大学院のHP(<https://www.nara-wu.ac.jp/daigakuin/index.htm>)をぜひご覧ください。本学大学院への入学を検討されている皆さん、上記のような各種の支援制度をうまく利用しながら、我々とともに、社会に貢献する高度な研究活動を展開しようではありませんか。教職員一同、皆さんの挑戦をお待ちしております。



大学院人間文化総合科学研究科長 遊佐 陽一

本学大学院博士後期課程(ドクターコース)は、2020年度から人文科学専攻、生活環境科学専攻、自然科学専攻、生活工学共同専攻の4専攻体制となり、研究科の名称は人間文化総合科学研究科となりました。新しい大学院博士後期課程では、学生の拠って立つ基本的な学問分野の原理や考え方を明確化するとともに、分野の壁を越えた先端的・融合的な研究活動も可能な教育体系が構築されています。

この組織改編によって、2014年度に実施した3学部の組織改編、2016年度にお茶の水女子大学と共同で実施した大学院生活工学共同専攻(博士前期・後期課程)の新設、2018年度に実施した大学院博士前期課程の組織改編と続いた一連の改革が完了し、大学の学部から大学院博士前期課程、博士後期課程へと繋がる一連の学びの体系が確立されたことになります。さらに現在は、2022年度の工学部新設に続く、大学院工学専攻(仮称)の設置に向けて、準備を続けています。

本学大学院は長い伝統を持ち、女性研究者・専門家を輩出してきましたが、現在もさらなる教育・研究環境の充実のための努力を日々続けています。長期履修学生制度や夜間・休日を含めた柔軟な教育カリキュラムの整備、キャリア開発のためのプログラム、子育て支援のためのサポート体制などはその例です。また学生への財政上の支援策として、博士後期課程では2021年度からSGC(shattering the glass ceiling: 女性の社会進出を阻む見えないガラスの天井を打ち砕く)フェローシップとSGC+プログラムが始まり、さらに2024年度からSGC-NEXUS(社会や後進との「つながり」)プログラムという、研究専念支援金(給与に相当)と研究費が支給され、博士後期学生が経済的な心配なく研究に専念できる制度が始まりました。他にも、博士前期・後期課程の授業料免除や奨学金制度に加え、博士前期課程修了者博士号取得支援制度、再チャレンジ型若手女性研究者支援制度といった、本学大学院博士後期課程入学を目指す際の入学金不徴収や既修得単位認定の支援制度等の制度を導入し、女性研究者の育成支援を行っています。2025年度からは博士後期課程の学生に対する経済的支援を大幅に拡充します。詳しい内容はホームページを是非ご覧くださいと思います。

言うまでもなく、大学院は在籍する大学院生が主役です。自分達こそが、活力ある大学院をそして将来の日本を作り上げるキーパーソンなのだ、という主体的・意欲的な意識を持った皆さんに、入学していただけるよう期待しております。様々な問題を抱えるこの社会を変革していくためには、高い意識を持った皆さんが、科学的なものの見方を身に着け、その実践を通して、成長する必要があります。本学大学院で是非お会いしましょう。

2 沿革・基本理念・目的

奈良女子大学・大学院へ、ようこそ。

明治42年(1909)に創立された奈良女子高等師範学校の伝統を受け継ぐ奈良女子大学は、お茶の水女子大学と併せて日本で二つしかない国立女子大学の一つとして、社会のリーダーとなる女性の育成を目指して努力を重ねてきました。近年は、その建学の理念に沿って、より多くの多才な女性を社会に送り出すべく、大学院の充実化に取り組んできました。そして2020年4月から、大学院の名称を人間文化研究科から人間文化総合科学研究科へと変更し、併せて、博士後期課程比較文化学専攻、社会生活環境学専攻、共生自然科学専攻、複合現象科学専攻の4専攻を、人文科学専攻、生活環境科学専攻、自然科学専攻の3専攻に組織改編することとしました。この結果、本学大学院人間文化総合科学研究科の博士後期課程は、お茶の水女子大学と共同で運営している生活工学共同専攻を含めた4専攻体制として走り出すこととなりました。さらに、2026年度からは、新たに工学専攻(仮称)の開設が予定されています。

上記のような本学大学院の姿勢は広く社会にも認められ、毎年、多くの新入生が入学しています。奈良女子大学大学院への入学者は、本学の学部卒業生が多いのはもちろんですが、他大学を卒業して入学してくる学生もかなりの数に上っています。また、本学が様々な海外の大学と交流協定を結び、国際交流を活発に進めていることを反映して、留学生も数多く入学しています。さらには、出産などで学業を中断せざるを得なくなる女性が少なくないことに鑑み、学業の再開を希望する女性をできる限り積極的に受け入れることを目指して社会人入試を実施しています。また、入学後の学業継続を容易にする「長期履修制度」も設けており、その結果、社会人学生もたくさん入学しています。2019年度からは、ライフイベント等により、本学や他大学の大学院博士後期課程を退学した経験を有する女性を対象として、博士号の取得を促進する「再チャレンジ型女性研究者支援制度」2020年度から本学大学院博士前期課程を修了した

社会人の博士後期課程入学と博士号取得を支援する「博士前期課程修了者博士号取得支援制度」も始まりました。以上のような大学院を取り巻く諸状況を反映して、出身校・出身国・年齢などが様々に異なる多様な院生たちが、対等・親密に交流し、共に学び、各自の研究を自由に進めているというのが、本学大学院の学風となっています。

このようなリベラルでアカデミックな大学院の雰囲気は、大学院人間文化総合科学研究科が、学部とは別の組織として運営される独立大学院であることも関係しています。ただし、大学院人間文化総合科学研究科が独立した組織であるとはいえ、決して孤立している訳ではありません。研究科は、研究科長をリーダーとして大学院担当教員によって運営され、教育・研究の両面から、学部や各種センターとも緊密に連携しています。たとえば、研究がグローバル化した時代に必要不可欠な国際的研究活動は、国際戦略センターが積極的にサポートしていますし、幼稚園から高等学校レベルまでの教育実践を進める本学附属学校園や、その教育活動のサポートを担う教育システム研究開発センターなどは、教職志望の大学院生の“教育力”形成を継続的に支援しています。

また、博士後期課程へ入・進学する学生の方には、2021年度から「奈良女子大学博士号取得支援SGCフェローシップ」、「奈良女子大学博士後期課程学生支援SGC+プロジェクト」、さらには2024年度から「奈良女子大学次世代研究者育成プログラムSGC-NEXUS」の募集が始まり、採択された方には、研究専念支援金や研究費の助成が行われています。

以上のように、奈良女子大学大学院は、研究職を目指す人も、高度専門職業人を志向する人も、その持てる可能性のすべてを花開かせることができるように、全学的なバックアップ体制を整えています。主体性をもち、学問研究に対する真摯な情熱をもった意欲的な女性の挑戦を待っています。



1. 奈良女子大学大学院の沿革

2019年（令和元年）に創立百十周年を迎えた奈良女子大学の歩みは、大学院の拡充過程に重点を置いて示せば右記のとおりです。

奈良女子大学大学院の沿革

1908年（明治41年）3月31日	奈良女子高等師範学校設置
1909年（明治42年）5月 1日	奈良女子高等師範学校授業開始
1949年（昭和24年）5月31日	奈良女子高等師範学校を包括し、奈良女子大学設置
1964年（昭和39年）4月 1日	大学院家政学研究科（修士課程）設置
1965年（昭和40年）4月 1日	大学院理学研究科（修士課程）設置
1968年（昭和43年）4月 1日	大学院文学研究科（修士課程）設置
1980年（昭和55年）4月 1日	大学院文学研究科（博士課程）設置
1981年（昭和56年）4月 1日	大学院人間文化研究科（博士課程）2専攻（比較文化学専攻、生活環境学専攻）設置〔大学院文学研究科（博士課程）を包括〕
1995年（平成7年） 4月 1日	大学院理学研究科情報科学専攻設置
1998年（平成10年）4月 1日	大学院人間文化研究科を区分制博士課程に改組 大学院修士課程の3研究科（文学研究科、理学研究科、家政学研究科）を大学院人間文化研究科博士前期課程として統合し、博士後期課程に複合領域科学専攻を増設
1999年（平成11年）4月 1日	大学院人間文化研究科博士後期課程比較文化学専攻および生活環境学専攻を比較文化学専攻および人間環境科学専攻に改組
2003年（平成15年）4月 1日	大学院人間文化研究科博士後期課程人間環境科学専攻および複合領域科学専攻を社会生活環境学専攻、共生自然科学専攻および複合領域科学専攻に改組
2004年（平成16年）4月 1日	国立大学法人奈良女子大学設置
2007年（平成19年）4月 1日	大学院人間文化研究科博士前期課程生活環境学専攻および人間環境学専攻を食物栄養学専攻、生活健康・衣環境学専攻、住環境学専攻および生活文化学専攻に改組
2009年（平成21年）5月 1日	創立百周年
2014年（平成26年）4月 1日	大学院人間文化研究科博士前期課程生活健康・衣環境学専攻を心身健康学専攻に改組
2016年（平成28年）4月 1日	お茶の水女子大学との「生活工学共同専攻（大学院博士前期・後期課程）設置
2018年（平成30年）4月 1日	大学院人間文化研究科博士前期課程人間行動科学専攻、心身健康学専攻、数学専攻、物理科学専攻、化学専攻、生物科学専攻および情報科学専攻をそれぞれ、人間科学専攻、心身健康学専攻、情報衣環境学専攻、数物科学専攻および化学生物環境学専攻に改組 国際社会文化学専攻を人文社会学専攻に名称変更
2020年（令和2年）4月 1日	大学院人間文化研究科を大学院人間文化総合科学研究科に名称変更。併せて、博士後期課程比較文化学専攻、社会生活環境学専攻、共生自然科学専攻、複合現象科学専攻の4専攻を、人文科学専攻、生活環境科学専攻、自然科学専攻の3専攻に組織改編
2022年（令和4年）4月 1日	国立大学法人奈良国立大学機構設置
2025年（令和7年）4月 1日	大学院人間文化総合科学研究科博士前期課程情報衣環境学専攻を情報環境学専攻に名称変更

2. 奈良女子大学大学院の基本理念と目的

奈良女子大学の基本理念

奈良女子大学は、大学をとりまく状況を次のように認識し、そのような状況にあって、本学が活動の指針とすべき理念を右記のように定めています。

奈良女子大学の基本理念

21世紀を迎え、情報化、国際化の急激な変化の中で、社会は複雑化・高度化し、人類は地球規模での共生・環境問題など多くの課題に直面し、これらの課題に対応し得る新しい価値観・思想、新しい科学・技術が強く求められている。経済や文化や教育など、さまざまな領域での国際的な交流が進む中で相互に協調関係を築き上げてゆくと同時に、各々が独自の競争力を持つことが必要とされている。特に天然資源の少ないわが国においては国際的に通用する人材、とりわけ今後ますます社会での活躍が期待されている優れた女性の人材育成が重要となる。

このような社会情勢を背景として、奈良女子大学は次の4つの理念を「奈良女子大学の基本理念」として掲げる。

- 1.男女共同参画社会をリードする人材の育成—女性の能力発現をはかり情報発信する大学へ
- 2.教養教育、基礎教育の充実と専門教育の高度化
- 3.高度な基礎研究と学際研究の追求
- 4.開かれた大学—国際交流の推進と地域・社会への貢献

奈良女子大学大学院の 基本理念

奈良女子大学大学院は、「大学院は、その知的活動によって社会の多様な要請や期待等に適切に応えながら、社会をリードしその発展を支えていく重要な役割を担っている。その使命は、新たな知を生みだし、社会・経済・文化を持続的に発展させ、また、国際的な貢献を果たすことである」という使命観の下、「奈良女子大学の基本理念」をふまえ、次の4つの基本理念を掲げています。

奈良女子大学大学院の基本理念

1. 研究教育の学際化

理念の第1として「研究教育の学際化」をあげる。21世紀において、社会が必要としているのは、細分化された個々の領域における専門的研究とそれらを統合・再編成した総合的な学問とのバランスのとれた発展であり、学術研究の著しい進展や社会・経済の変化に対応できる幅の広い視野と総合的な判断力を備えた人材の育成である。本学は、人・モノ・情報の交流が容易な小規模大学の特性を活かして、高度な基礎研究に裏付けされた、学際的、総合的な研究教育を行う。

2. 研究教育の高度化

理念の第2として「研究教育の高度化」をあげる。そのために複雑で高度化した諸学問を扱うにふさわしい研究教育体制を整える。大学院博士前期課程では専門性の獲得と学際的な視野の発達を図り、博士後期課程ではそれらの積極的な融合を行う。また同時に研究教育の重点を大学院ヘシフトさせ、他大学大学院との強力な研究教育連携・協力を進めることにより研究教育の高度化を図る。

3. 研究教育の個性化

理念の第3として「研究教育の個性化」をあげる。そのためには、本学の伝統ある「人間とその周辺環境や文化それ自体と、それらの間の関係」を取り扱う学問や生命・人間・生活・環境科学の強化によって、個性ある研究教育を推し進める。そのために小規模大学の利点を生かした文理融合体制の下、現在の人類、日本がかかえる諸問題に、奈良の地の地域的文化的特性を生かしつつ取り組む。そして、このことにより、21世紀の新しい人間文化の構築に貢献する。

4. 女性の人材育成と社会への貢献

理念の第4として「女性の人材育成と社会への貢献」をあげる。少子高齢社会や情報通信革命への対応、地球規模での環境問題の克服、新たなライフスタイルとそれを受けとめる生活環境の創造等の、地域社会、日本そして国際社会が直面している数多くの課題の解決に貢献するとともに、それらの課題に応える「広い視野を持つ、高度な専門能力を有する女性の人材」を育成する。また日本およびアジア諸国の女性の研究教育拠点およびライフサイクルの各段階に応じた生涯学習の拠点としての役割を遂行する。これらを通してさまざまな分野における女性のリーダーの育成につとめ、国際的な視野に立った女性の高等教育、および男女共同参画社会の推進に寄与する。

奈良女子大学大学院の目的

奈良女子大学大学院は、「学際性の推進」、「専門性の高度化」、「個性化の確立」、「国際感覚の涵養」を柱とし、豊かな人間性と高度な知性を備えた人材を養成することを目的とします。

奈良女子大学大学院の特徴

専門教育の高度化・学際化をさらに推進するとともに、女性のライフサイクルにも配慮した制度上の運用等によって、女性の高度専門職業人・研究者を養成しています。また、以下の事業が採択されています。

- ・科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」
2019年度採択
- ・科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業
「奈良女子大学 博士号取得支援 SGCフェローシップ」2020年度採択
- ・次世代研究者挑戦的研究プログラム
「奈良女子大学 博士後期課程学生支援 SGC+プロジェクト」2021年度採択
- ・大学、高専機能強化支援事業
「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援」2023年度採択
- ・科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」2024年度採択
- ・次世代研究者挑戦的研究プログラム
「奈良女子大学 次世代研究者育成プログラム SGC-NEXUS」2024年度採択

“したい意欲”を、“できるチカラ”に変えるために—

大学院・博士前期課程で、学ぶ。

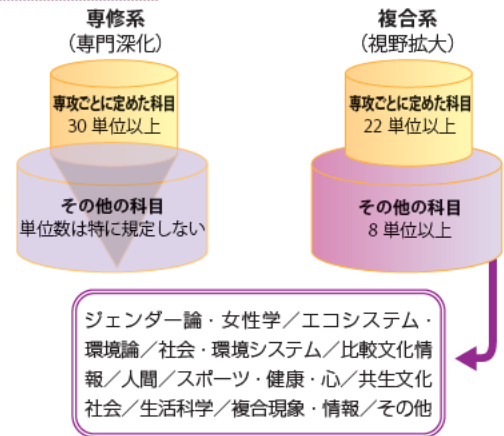
1. 人間文化総合科学研究科・博士前期課程の目的と特色

人間文化総合科学研究科・博士前期課程の目的

人間文化総合科学研究科・博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要の能力を備えた人材を養成することを目的とします。

人間文化総合科学研究科・博士前期課程の特色

大学院修了者に対する社会の多様な要求に対応するため、人間文化総合科学研究科・博士前期課程では、研究者養成だけでなく、高度な専門的知識を有する職業人の養成についても行っています。その社会的使命にふさわしい教育を展開するため、高度な専門的能力を有する専修系(専門深化)と幅広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を養成する複合系(視野拡大)の2つの履修系列を設けています。なお、キャリア形成支援の観点から、キャリア科目(教職専門科目等)については、学部開設科目の履修単位に制限を設けておりません。



2. 人間文化総合科学研究科・博士前期課程の各専攻・コースの教育研究内容

学部	博士前期課程	博士後期課程
文学部	人間文化総合科学研究科 人文社会学専攻 歴史学コース 地理学コース 社会学コース 歴史学・地理学・社会学のいずれかを基盤として、幅広い視野から歴史・社会・文化・自然・地域などについて教育研究します。	人文科学専攻 比較文化学講座
	言語文化学専攻 日本アジア言語文化学コース ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース 言語文化学専攻 国語学・国文学・中国語学・中国文学・英語学・言語学・イギリス文学・アメリカ文学・ドイツ文学・フランス文学について教育研究します。	社会人間学講座
	人間科学専攻 教育学・人間学コース 心理学コース 哲学・思想、教育学、心理学、音楽、身体文化学について教育研究します。	
生活環境学部	食物栄養学専攻 食品科学、栄養科学、分子病態学、臨床栄養学、微生物学、公衆栄養学など食に関する多様な教育研究を行います。	食物栄養学講座
	心身健康学専攻 生活健康学コース スポーツ科学コース 臨床心理学コース 生理学、環境生理学、神経科学、生化学、住環境学、スポーツ科学(スポーツ社会学、スポーツ心理学、スポーツバイオメカニクスなど)、臨床心理学、犯罪心理学、乳幼児心理臨床、認知行動療法などの教育研究を行います。	心身健康学講座
	情報環境学専攻 衣環境学コース 生活情報通信科学コース コンピュータシステム、ソフトウェア工学、人工知能、知的エージェント、情報理論、衣環境管理学、衣環境素材学などの教育研究を行います。	情報衣環境学講座
	住環境学専攻 住居構造防災論、建築環境論、住環境管理論、住環境史論、住居論、住居集合論、地域空間政策論、住環境デザイン論、景観設計論などの教育研究を行います。	住環境学講座
理学部	生活文化学専攻 家族社会学、消費者法、比較ジェンダー史、環境社会心理学、消費経済学、表象文化論について教育研究を行います。	生活文化学講座
	数物科学専攻 数学コース 数論、代数学、代数幾何学、多様体論、位相幾何学、幾何学、確率論、確率微分方程式、関数解析学、関数方程式論、非線形解析学などの教育研究を行います。	数物科学講座
	物理学コース 素粒子論、ハドロン物理学、原子核物理学、高エネルギー物理学、宇宙物理学、観測的宇宙論、放射線物理学、凝縮系の物理学、非平衡ダイナミクス、金属物性物理学などの教育研究を行います。	
	数物連携コース 応用トポロジー、代数幾何学、群と離散幾何学、ゲーム情報学、計算機物理学、凝縮系の物理学、非平衡ダイナミクスなどの教育研究を行います。	
	化学コース 化学的現象の解明や新機能性分子の創造を目指し、物理化学、有機化学、無機化学に立脚した研究教育を行います。	
化学生物環境学科	生物科学コース 多種多様な生物が分子から生態系まで様々なレベルで織りなす現象を理解することを目指し、分子生物学、生化学、細胞生物学、発生学、生理学、形態学、遺伝学、進化学、ゲノム生物学、分類学、行動学、生態学など様々なアプローチにより生物科学研究を行い、研究の実践に基づいた教育を行います。	化学生物環境学講座
	環境科学コース 人間を含む生物と環境の相互作用や、ミクロからマクロまでの環境の構造と動態を科学的に解明するとともに、環境問題の改善のための方法の開発と環境対応社会の構築を目指すことを目的とし、地球環境科学、数値生命システム、環境化学、生物環境学の4分野における教育研究を行います。	
生活工学共同専攻	博士前期課程 博士後期課程 高分子構造・繊維材料、ゲル材料・有機機能材料、固体イオニクス材料、機能性有機分子、生活に関連する人間情報学及びHI、ウェアラブルコンピューティング、機械学習・データサイエンス、五感インタフェース、人間情報学、福祉工学、生体医工学、認知神経科学・健康工学、都市建築史、保存再生、人間工学、建築環境工学、建築設計・都市デザインなどの教育研究を行います。	



開講授業科目 <https://koto.nara-wu.ac.jp/kym2003/syllabussearch.html>

※令和7年10月入学より募集停止予定

専攻の概要

【博士前期課程】

人文社会学専攻

歴史学・地理学・社会学のいずれかを基盤として、幅広い視野から歴史・社会・文化・自然・地域などについて研究する専攻です。

教育理念

人文社会学専攻は、歴史学、地理学、社会学のいずれかを基盤として、学際的に諸問題を探求できる人材を育成することを目的としています。従来の枠組みにとらわれることなく、関連分野に対しても熱いまなごしを注ぐことができる意欲的な学生を望みます。

求める学生像

左記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- ・専門分野に関する基礎的知識
- ・資料や文献を読み解くための語学力
- ・調査・分析、フィールドワークなどを行うための研究方法に関する経験・知識
- ・調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- ・大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- ・社会生活に根ざした真摯な問題意識
- ・大学院における研究を広く社会に還元する意欲

本専攻は、歴史学コース、地理学コース、社会学コースの3コースで構成されています。歴史学・地理学・社会学が、従来の枠組にとらわれることなく有機的に連携して、社会科学や人文科学、さらに自然科学に及ぶ多彩な授業科目を用意しています。歴史、社会、文化、自然、地域などの諸分野を対象とした各専門領域を深めるとともに、学際的に諸問題を探求できる人材を育成します。

歴史学コース

歴史学コースは、日本史・東洋史・西洋史・考古学・美術史から構成されており、歴史を総合的に学ぶ場を提供しています。さまざまな言語で記された文献の読解・分析や、人間の諸活動の成果である遺跡や遺物、文化財などの見学・調査を通して学びを深めるとともに、対象とする時代や地域、方法の差異を越えて意見交換を行うことにより、広い視野から歴史上の諸問題について考えるコースです。

そこでは、日本・アジア・ヨーロッパを中心に、さまざまな地域のアイデンティティについて、また、いろいろな時代の政治や経済、外交、社会、思想、文化について、自分自身の問題関心を育みながら学ぶことができます。古代日本の都がおかれ、列島規模の交通の、さらには国際交流の一つの拠点であった奈良の地は、居ながらにして歴史を感じさせてくれるところです。そうした環境のなかで、みずからの興味・関心を学問上の問いへと深め、追究することにより、地域間格差や紛争、環境問題など現代の私たちが抱える問題に向き合う上でも広く求められる歴史的思考を培うことができます。



絵図の検討

地理学コース

文系・理系の知を融合する総合的な科学の構築をめざす地理学コースでは、人文地理学、自然地理学、地誌学、地域研究を視座に置き、人間活動と地域・環境との関係性を多面的に研究します。さらにこれらに関連する諸学問の理論について学ぶとともに、インタビューやアンケートを用いた調査方法、地域調査データや地理情報の高度な解析・分析手法を身につけることで、野外調査を含む地域調査を自ら企画・実践する能力を養うことができます。

このような専門的な知識・技術を活かして、たとえば、地域の自然・社会・経済、都市の成り立ち、まちづくり、生活文化、ツーリズム、ポピュラーカルチャー、ジェンダー、景観、環境問題、自然災害などのテーマについて、国内や海外をフィールドとして、グローバルな視点からミクロな視点まで、多様な空間スケールで研究を行います。地域に関わる多様な資料・情報・データの分析に必要な高度な技術・知識をしっかりと身につけ、人間活動と地域・環境との関係性を多面的に捉える鋭い観察力と的確な分析力を培うことができる点が、本コースの大きな特徴です。



鹿児島県・開聞岳周辺でフィールドワーク

社会学コース

私たちの生きる社会は、人々のつながり（関係）とそのつながりを基礎とした仕組み（制度・構造）と、それらを持続あるいは変化させる媒体（文化・コミュニケーション）から成り立っています。社会学コースでは、これら社会を構成する要素を基本的視点に置きつつ、現代社会で生じている諸現象を読み解くことを目的としています。具体的には、グローバル化、ジェンダーと家族、都市と地域、格差と不平等、コミュニティと社会ネットワーク、文化とメディア、多様性が進展する社会における共生などのさまざまなテーマ・領域を扱います。

コースでの学びを通して、人間の多様性やグローバル社会への視座も重視しながら、高度で専門的な社会学的思考力と分析技法を習得します。さらに、社会学的な探究と関わりの深い文化人類学や、ジェンダー論、観光論、メディア論なども学びつつ、現代社会において解明すべき課題を自ら設定し、その課題に積極的かつ独創的に取り組む能力を身につけます。



社会学のさまざまな文献

本専攻の院生は、以上のような多彩な内容をもつ3コースのいずれかに所属し、各コース・分野の専門領域について深く研究する一方、必要に応じて関連諸分野の他コースや他専攻の授業を受講することによって、独自の研究領域の開拓を目指すことができます。

本専攻を修了すれば、修士（文学、学術）の学位が与えられ、教員の専修免許（中学校社会、高等学校地歴、高等学校公民）や学芸員資格、専門社会調査士資格の取得が可能です。加えて、所属するコースや分野の専門的知識・技能を習得することによって、新しい職業キャリアへの道が開かれています。

また、本学大学院博士後期課程へ進学を希望する場合、人文科学専攻の比較文化学講座や社会人間学講座のいずれかへの進学も可能です。この点にも本専攻の他にない幅広さが表れているといえます。

本専攻を修了して、公務員・教員・研究職・一般企業などで活躍している諸先輩も多く、バラエティーに富んだ進路が開けています。

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程人文科学専攻比較文化学講座または社会人間学講座へ

言語文化学専攻

国語学・国文学・中国語学・中国文学・英語学・言語学・イギリス文学・アメリカ文学・ドイツ文学・フランス文学について、広い視野から深く学ぶコースです。

教育理念

言語文化学専攻には、日本・中国およびヨーロッパ・アメリカの言語や文学を専門とし、さまざまな方法で研究を行う教員が集っています。この多様性を活かして、例えば、日本近代文学を専門としつつ、フランス文学理論をあわせて学んだり、写本の一字一字を丹念に読む文献学的方法と、コンピュータによるテキスト分析の方法を共に身につけるなどといった、自分の研究テーマをしっかりともち、かつ幅広い視野に立った研究にチャレンジする学生を育てます。

求める学生像

左記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- ・専門分野に関する基礎的知識
- ・資料や文献を読み解くための語学力
- ・調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- ・大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- ・社会生活に根ざした真摯な問題意識
- ・大学院における研究を社会に還元する意欲

日本アジア言語文化学コース、ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コースの2コースから構成され、研究課題分野は国語学・国文学・中国語学・中国文学・英語学・言語学・イギリス文学・アメリカ文学・ドイツ文学・フランス文学などの諸分野にわたります。本学の博士後期課程に進学して博士（文学）の学位を取得し、研究者として自立する道が開かれています。また高等学校専修免許（国語・英語）のほか、各種資格が取得可能です。

日本アジア言語文化学コース

日本アジア言語文化学コースは、日本と中国の言語と文学作品を中心に、東アジアの言語文化を視野におさめながら、研究するコースです。

古代から現代にいたる日本語の歴史、万葉集などの上代文学、物語文学や説話集から和歌や連歌などの多彩な広がりをもつ中古～中世文学、出版文化の隆盛とともに展開していく近世の諸文芸、明治・大正・昭和と展開してきた近現代文学、そして、世界で最も長い伝統を誇る中国文学・中国語学。本コースはこれらの諸領域を研究する教員によって構成されています。

それぞれの専門の研究指導のもと、時代・社会・文化的背景に即して深く探究すると同時に、固定観念を捨てた斬新な視点で、あるいは領域横断的に、言語と文学への考察を進めていくことが望まれています。演習・講義および研究指導は、すぐれた専門性と各領域相互の密接な連携によって行われており、教育・研究環境は多彩かつ充実しています。資料や文献を丹念に読解するとともに、確かな分析と論理にもとづいて探究する、独創的な研究を目指します。



毎年2月に行われる卒業論文・修士論文発表会での大学院生の発表及び質疑応答場面

ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース

ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コースは、次の5分野が、国境を超えて相互交流し、より広い視野からの研究を進めています。

- ・英語学・言語学：現代英語の音声、語、文、談話などの構造や意味を中心に研究します。コンピュータ・コーパスを利用した研究や、日英比較をはじめ複数言語にわたる対照言語学的研究も可能です。特に、関連性理論や談話研究を含む意味論・語用論の分野の授業が充実しています。
- ・イギリス言語文化学：シェイクスピアの時代から現代に至る詩・戯曲・小説等の代表的作品を、それらの背景となる歴史・文化を視野に入れつつ、同時に現代の批評意識をも反映させた斬新な研究を目指します。
- ・アメリカ言語文化学：清教徒的倫理性と奔放な想像力、前衛と移民文化継承、それら多様な魅力を併せもつ文学の、伝統的分析批評と共に、本国のアメリカン・スタディーズを視野に入れた学際的研究をも目指します。
- ・ドイツ言語文化学：ドイツ、スイス、オーストリアに広がるドイツ語文化圏の作家、詩人の作品と人間について、欧州の文化史的背景を視野に入れながら、超越的世界への独特の関心に貫かれた言語・芸術の諸相を研究していきます。
- ・フランス言語文化学：美しいフランス語の精華を究めつつ、人間にたいする興味に貫かれた詩・小説・演劇を、他の芸術（映画、美術、音楽）や学問（記号学、文化人類学、精神分析学）も視野に入れて研究します。



人間科学専攻

哲学、教育学、心理学、身体文化学、音楽などを基盤に、人間存在とその営みのさまざまな側面について幅広く学ぶコースです。

教育理念

人間科学専攻は、哲学・思想、教育学、心理学、音楽教育学、身体文化学等の研究を通して、人間と人間の行動について広い視野から深く学ぶことを目的としています。教育学・人間学コースでは、人間形成と人間存在に関わる幅広い事象について、高度な専門教育と研究を行います。心理学コースでは、人間の心と行動そして人間関係について、理論と実践の両方を視野に入れて高度な専門教育と研究を行います。

求める学生像

- 左記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。
- ・専門分野に関する基礎的知識
 - ・資料や文献を読み解くための語学力
 - ・資料の分析、実験や観察、フィールド調査などの研究方法に関する知識と能力
 - ・調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
 - ・大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
 - ・社会生活に根ざした真摯な問題意識
 - ・大学院における研究を社会に還元する意欲

人間科学専攻は、以下の2つのコースからなり、人間を理解し、人間の諸行動そして文化を探究するという共通の課題を有しています。コース間の連携を保つことによって、より高度な教育と研究を行うことができます。

また本専攻においては、幼稚園・小学校教諭の専修免許状を取得することができます。

修了後は、専修免許状を持った教員、自治体の生涯学習担当、教育や福祉領域や医療における心理職などの専門職として活躍できます。また、大学院における学修・研究を活かして、多様な職種の一般企業や公的機関にも就職しています。博士後期課程に進学し、博士の学位を取得する道も開かれています。

教育学・人間学コース

教育学・人間学コースは、人間形成と人間存在に関わる幅広い事象—教育の思想と実践、哲学・倫理学上の思想的諸問題、身体にかかわる文化、芸術、メディア、音楽や音楽教育、音楽文化等—を教育・研究の対象とします。

「教育学分野」では、人間の成長・発達及び教育の構造について原理的・歴史的・実証的に解明を試みます。

「哲学・思想分野」では、人間をその存在そのものにおいて根本的・原理的に究明し、社会の倫理的基盤について考察します。

「音楽教育学分野」では、音楽と人間のかかわりを根源的に問うために、歴史・社会・文化を含めた複眼的な視点からアプローチしていきます。

「身体文化学分野」では、身体という切り口から文化の多様な側面について歴史的・社会的な理解を試みます。

本コースでは、文献資料による理論的研究、実証的研究、観察・インタビュー・アンケート等の調査による実証的研究など、多様な研究方法を批判的に吟味しつつ活用します。

現代社会における様々な人間の営みについて生き生きとした関心を持ち、その問題点を原理的に探究するとともに創造的に克服していく、高度な専門的能力を身につけた学生を育てます。



演習でのグループディスカッション

心理学コース

心理学コースでは、エビデンスに基づいて「心」を科学的に研究し、人間とは何かという根源的な問いを探究します。知覚・認知などの基礎心理学、教育と発達心理学、対人関係や社会心理学などの多角的な見地から学び、研究します。一人ひとりの人間の心のはたらきや、そのあらわれとしての行動だけでなく、人と人との関わりの中で生まれる相互作用、幼稚園・学校や社会の中での人々の営みなど、様々な対象について、心理学の手法を用いて描き出し、分析し、考察します。実験や質問紙調査などを用いる量的研究、フィールド観察や面接などを用いる質的研究のどちらであっても、現象を深く鋭く追求して学問の発展に資するとともに、研究を通して社会に貢献することを目指す学生を育てます。

また、本コースでは、公認心理師(国家資格)の資格試験の受験要件を満たす教育課程も備えています。公認心理師資格試験の受験要件を満たすためには、同資格に対応する学部教育課程で単位を取得して卒業し、大学院にて同資格に対応する講義9科目と450時間以上の実習の単位を取得して、博士前期課程を修了する必要があります。

人間をより深く理解するためには、様々な知識や研究手法が必要です。同時に、心理学によって何をを目指すのか、研究を通して人間の幸福に貢献するとはいかなることなのかなど、研究営為の社会的意義を常に問う姿勢が求められます。様々な現象に不思議さを感じ取れる好奇心と、その追究に意味を見いだせる、研究意欲をもった学生を期待しています。



心理教育相談室での活動風景



小学生の活動の観察調査風景

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程人文科学専攻社会人間学講座へ

食物栄養学専攻

病気を予防し、健康を維持・増進する食生活を実現するために、食物の栄養、機能、安全性をはじめとする、現代の食に関わる多様な問題を研究・教育することを目的とします。

教育理念

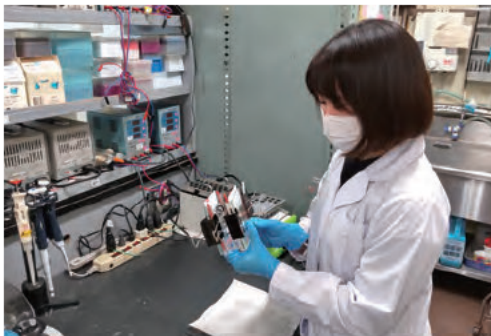
本専攻は、病気を予防し、健康を維持・増進する食生活を実現するために、現代の食に関わる多様な問題について研究・教育することを目的とします。したがって、広い視野に立ちこの分野に対する意欲的な研究マインドを持つ学生を望みます。

求める学生像

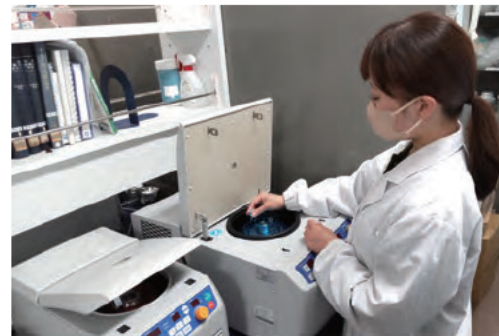
- ・一定の科学的知識を備えている
- ・食物栄養学において将来の科学的展望を切り開いていこうとする意欲がある
- ・科学論文を理解する語学力と読解力がある

本専攻は、健全で快適な食生活の創造を目的として、医学、農学、薬学、工学などの専門領域の情報を集約し、食物の栄養性・機能性・安全性・嗜好性・調理加工性などに加えて、疫学的臨床研究など、分子レベルから生体、さらには集団としての人の研究まで、広い範囲にわたって研究・教育を行います。

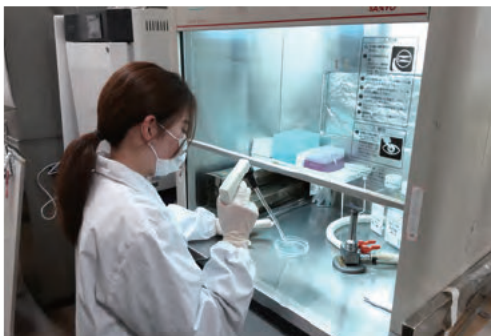
本専攻では、食物・生命・健康・環境等について高度で幅広い知識と研究能力を持った人材、例えば新規食品や食品加工法の開発研究者、食品分析の専門技術者、製薬、保健・健康関連企業等の研究開発スタッフ、地域社会における食生活・健康の指導者（行政）、食物栄養学関係の大学・短大教員などの人材の育成を目指しています。また、中学・高校家庭科教師の専修免許、管理栄養士の資格のある人は栄養教諭の専修免許が取得できます。生活関連企業の研究開発員、官公庁の生活関連の職員などが期待されます。



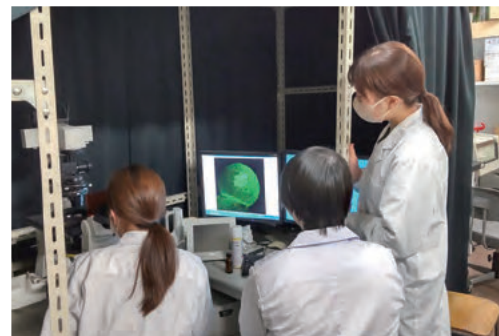
実験準備の様子



実験試料調製の様子



細胞培養作業の様子



細胞観察の様子



測定・データ解析の様子



ディスカッションの様子

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程生活環境科学専攻食物栄養学講座へ

心身健康学専攻

健康な人間生活のあり方を、こころと身体健康という視点から研究・教育することを目的とします。

教育理念

心身健康学専攻は、心と身体健康と人間を取り巻く環境との相互作用について学び、高度な科学研究の成果を応用して健康で安全な生活を実現するための知識と技能を身につけた人材の育成を目的としています。これらの知識や技能を身につけるために、3つのコース（生活健康学コース、スポーツ科学コース、臨床心理学コース）を設け、それぞれの視点からより深く研究教育を行います。高い専門性を保ちながら、幅広い視点で健康や生活のあり方について考え、よりよい生き方や環境のあり方を提案することにより社会に貢献できる人材を育成することを教育理念としています。

求める学生像

- 心身健康学専攻は次のような資質および意欲をもつ学生を求めます。
- ・身近な生活環境、社会環境、生活習慣と心身の健康との関連を深く探究しようとする学生。
- ・個々の学問領域の基礎となる専門知識を有し、新たな認識・知識の獲得に意欲的な学生。
- ・心と身体健康に関する知識を総合的に学び、高度な専門的知識を再構築する意欲ある学生。
- ・幅広い事業分野で専門職業人として、女性リーダーとして社会貢献を目指す学生。
- ・さまざまな分野で国際社会に貢献することを目指す学生。

本専攻は、生活健康学コース、スポーツ科学コース及び臨床心理学コースの3つのコースから成り立っています。これら3コースはそれぞれ次のような特徴を持っています。

生活健康学コース

生活の中における複雑な健康問題を研究するためには、衣・食・住に加えて、運動や栄養、ストレスなどとの関連から健康について統合的に考える思考力が必要とされます。したがって、本コースでは、生活環境、生活習慣と健康との関わりについて総合的な視野に立って、研究・教育し、健康について高度で幅広い知識と判断力をもつ人材の養成を目指しています。生理学、神経科学、生化学、認知科学、神経内分泌学などの専門領域の情報を集約し、分子レベルから生体までの広い範囲にわたって研究・教育を行います。健康についての幅広い知識を深めながら、専門領域における創造性のある研究資質を育てています。

本コース修了生の進路としては、健康・生活関連企業や製薬・医療関連企業などで研究開発に従事する研究員、大学・短大教員、官公庁の健康・生活関連の専門職員などがあり、各分野で専門職としての活躍が期待できます。また、専修免許を持つ中学・高校家庭科教師などへの道も開かれています。



スポーツ科学コース

現代社会では、からだやスポーツの象徴性という視点を通して人間や社会のありようを考える必要性が高まっています。本コースでは身体運動やスポーツをとりまく諸現象を、人文・社会・自然科学からのアプローチにより解明し、社会に貢献します。

遊びやスポーツの歴史、現代スポーツが抱える諸問題、スポーツにまつわる法や政策、社会環境と生涯スポーツ、運動・スポーツの実施が心身にもたらす効用、身体運動の習熟過程とそれに伴う心理的変容などをキーワードに、文献、調査、実験などを駆使して研究し、専門性を高めていきます。

研究の方向性をより確かなものにするために、大学での学びに加え、幅広い年齢層を対象とした地域連携事業や地域スポーツイベントへの参画によって様々な他者や最新の事例に出会う機会を用意しています。自らの研究課題に真摯に向き合う、データを収集し分析する、的確に説明する、対象にフィードバックを行うなどのプロセスを通して、新しい知見を世に問う積極性や実践応用力を身につけていくことができます。

教育や福祉、スポーツ産業をはじめ、ウェルネス志向の高まる社会の様々な領域に、この専門性を活かせる場が広がっています。



臨床心理学コース

現代社会では、うつ、不安、発達障害、不登校、非行などさまざまなこころの問題があります。本コースでは、このようなこころの問題に関するについて研究します。心理学の立場から、科学的にこころの問題を捉える方法である心理検査をはじめとした心理アセスメント法を学ぶとともに、それら問題を抱えている人たちの回復を援助するためのカウンセリング・心理療法について、知識を学ぶだけでなく、個別スーパービジョンやケースカンファレンスを受けつつ、学内の臨床心理相談センターや学外の協力施設での実習を受けることで、身につけていきます。将来、臨床心理学の専門家として活躍できる人材を育てます。

大学で必要な単位を取得したうえで、大学院の本コースで必要な単位を取得することで、公認心理師試験の受験資格を得ることができます。

また、本コースは臨床心理士指定大学院(第1種)ですので、本コースを修了することで臨床心理士の受験資格が得られます。



さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程生活環境科学専攻心身健康学講座へ

情報環境学専攻

情報環境学専攻では、情報技術や衣環境の専門分野の高度な知識を活かした衣環境のフロンティアと、ライフコンピューティングを創出するシステム開発の教育研究を行います。これにより、生活環境を質的に向上させる基礎研究、生活者を見守り支える仕組みを創出するハードウェアならびにソフトウェアの社会還元を目指しています。

教育理念

情報環境学専攻は、快適・健康・安全で質の高い生活環境を創り出すために必要な衣環境に関わる新しい技術開発や諸問題の研究に取り組める指導的人材を育成すること、現代社会の ICT 環境を構成しつつあるライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する技術を開発し社会に発信できる人材を育成すること、を基本理念とし、さらに融合的な先端学際領域で活躍できる人材を育成するために、衣環境学コースおよび生活情報通信科学コースにおいて、多岐多様な分野に関する最先端の研究教育を行っています。

求める学生像

本専攻は衣環境学と生活情報通信科学を軸とする生活環境科学の多様な教育研究を行っています。従来の科目区分の枠に収まらない学際的な研究分野に興味を持ち、安全で快適な衣環境設計やライフ・コンピューティングの展開に積極的に関わる意欲のある学生を歓迎します。専門分野の研究を十分に行うために英語の能力も必要です。以上の点に関して十分な知識を習得していることを期待します。

ライフコンピューティングとは本専攻が提案・推進する新しい概念であり、ビックデータ解析に人工知能技術を組み合わせ、生活者を見守り支える仕組みの全般を意味します。衣服では人が活動しつつ生体情報を得るような健康管理分野が注目を浴び、衣服の拡張としてのウェアラブル情報端末による生活ナビゲーションなどの付加技術が注目を浴び、高齢化社会を支え、地域格差を解消する超スマート社会の実現が期待されています。このような社会的な要請に応えられる革新的な生活環境を実現できる人材を養成することを目指して活動しています。

衣環境学コース

健康で快適かつ安全な生活のあり方を、物質科学、環境科学、分析化学の原理や技術をもとに、衣環境学に関連する情報処理やデータ解析など衣環境学の先端技術について研究し、創造性豊かな研究能力や人々の生活や社会のための衣服を創造、企画設計できる能力を習得するための研究教育を行っています。

生活情報通信科学コース

ICT を駆使して生活の質を向上させる技術であるライフコンピューティングを推進するための教育研究を、コンピュータシステム、ソフトウェア工学、アプリケーション、人工知能、情報基礎等の網羅的な科目群で学ばせ、創造性豊かな研究能力や、生活者のためのサイバー社会を創造、企画設計できる能力を習得するための研究教育を行っています。



脳波測定の様子



(研究成果) 経路探索ロボット



(研究成果) 近代デジタルライブラリ



ゼミ風景



放射光研究施設での実験風景

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程生活環境科学専攻情報衣環境学講座へ

住環境学専攻

安全・安心で、快適に生活することができる美しい住環境をデザインするために、住居内外での生活と住環境との関連を、生活者の視点から研究・教育することを目的とします。

教育理念

人間の日常的な生活環境から地球環境に関わる諸問題を、生活の視点から総合的に捉えて、問題を解決する能力を養います。そして、社会が求めている安全で安心できる住まい、かつ快適で魅力的な住環境という要請に応じて、計画・設計を創造提案し、それらを維持・管理できる高度な専門的知識を備えた人材を育成することを教育理念としています。

求める学生像

次のような資質や能力がある学生を求めます。

- ・専門分野に関する基礎知識のある人
- ・住居の内外での生活や住環境のあり方を考える問題意識のある人
- ・さまざまな生活を容れる居住空間や住環境を計画・デザインすることへの強い関心のある人
- ・専門領域において課題・問題を見出し解決する能力のある人
- ・調査・分析、実験、フィールドワークなどを行う研究方法に関する経験や知識のある人
- ・大学院における研究を広く社会に還元する意欲のある人

本専攻では、住宅・生活共同施設・道路・公園緑地などから構成される住環境の空間特性・サービス特性を人間生活に関連づけて研究・教育します。また、その構築・運営・維持管理に関わる構築方法・財政・法的規制などとの関連事項についても教育・研究します。

社会科学的方法を援用する住居論、住居集合論、地域空間政策論、歴史学的方法と比較文化学的方法を駆使する住環境史論、生活空間計画論、自然科学的方法と心理学的方法を複合させる建築環境論、住環境管理論、物理学的方法により解析する住居構造防災論、多様な方法を複合的に活用する住環境デザイン論、景観デザイン論などの研究・教育を通じて、住環境の構築と管理運営に関する高度で幅広い知識と技量を有する専門職、研究職の育成を目指します。

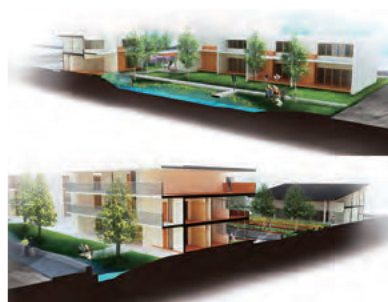
本専攻の修了生の社会への進路としては、建築学・住環境学関連の研究教育分野に加えて、一級および二級建築士、ランドスケープアーキテクト、住宅産業および建築企業の企画・設計スタッフ、インテリアプランナー、建築設計・都市計画コンサルタント、建築・都市計画行政職員、家電設備関連企業等の研究開発員などでの活躍が期待されます。



内モンゴル自治区・ゲルの調査



寺院建築の耐震調査



修士設計作品



夏季の床冷房の人体影響に関する実験



設計者からの建築デザインレクチャー



都市公園竣工現場の視察



伝統的町屋を活用したプレゼンテーション



住環境設計の草案講評会



文化財の改修現場の見学

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程生活環境科学専攻住環境学講座へ

生活文化学専攻

私たちの日常生活にあるミクロな問題が、世界のマクロな問題とつながっていることを、文化、歴史、法律、経済、環境、心理、ジェンダーなどのさまざまな視点から研究します。

教育理念

男女共同参画、環境保護、高齢化、少子化など、現代の生活に関わる課題は極めて多様です。本専攻では社会科学と人文科学にまたがる教育カリキュラムを用意し、身近なところから問題を掘り起こす課題発見能力、諸問題の複雑な相互関連まで含めて明らかにする論理的分析力、研究を現実社会への提言に結びつけることのできる応用力をあわせ持った、真に社会に貢献できる人材の育成に努めます。

求める学生像

- ・家庭生活を中心とする人間的スケールから生活環境のあり方を考えるということに、強い興味と関心を持つ学生を求めています。
- ・社会科学、人文科学の分析視角を創造的に融合させることによって、身近な「世界」の中に、新たな認識・知識を発見していくことに対して意欲的な学生を、文系・理系を問わず歓迎します。

生活文化学専攻の特色は、それぞれ独自の専門分野をもつ教員からなる専攻だということです。個々の教員は、それぞれユニークな研究テーマをさまざまな方法や理論を用いて研究しており、その多様性こそがこの専攻の特徴と言えます。そこで、本専攻ではこの独自性をうまく生かすために、複数の教員が指導する体制をとっており、通常一人の学生に主任指導教員1人と、副指導教員があたることになっています。各教員が、どのような研究テーマをどのような理論や方法を用いて行っているかを知るために、それぞれの教員の書いた論文や著書を直接読むことをお勧めします。

人文社会系の学問は、唯一の正解を求めるものではなく、新しいものの見方や批判的視点を提示し、研究者のオリジナリティーを出すことに意義があります。新進の研究者が、生活文化学専攻で斬新な研究を行い、新たな研究分野を切り開くと同時に、社会を変える力になることを期待します。



NHKの取材を受ける大学院生



女性農業者に聞き取り調査をする大学院生



北海道調査で石臼体験



修論発表会



アートイベント

修了生の進路について

修了生の進路としては、国家・地方公務員などの行政領域(一般行政職、教員、家裁調査官等)、地域団体での女性リーダー、各種企業の企画・消費者・福祉部門、シンクタンクなどへの進出が期待されます。後期課程に進学して大学・短大・研究所などの教員や研究者を目指す人も多数います。

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程生活環境科学専攻生活文化学講座へ

数物科学専攻

数学と物理学が連携して教育・研究を行い、さまざまな自然現象や社会現象の中に潜む原理や現象の間に共通な普遍的法則を見出すことで、数学的、物理学的思考方法や知識を習得する専攻です。

教育理念

数物科学専攻は、社会のグローバル化、価値観の多様化、予測不能な自然・社会現象に対応できる広い視野と多様な価値観を持ち、高い水準の数学と物理学の専門知識を備えるとともに、その知識を社会の中で自らが置かれた立場に応じて継承し発展させることができる人材を育成することを目的としています。

この目的に沿って、数物科学専攻には、数学コース、物理学コースおよび数物連携コースの三つのコースを設けています。数学コースでは自然科学の知識と応用を背景に、高度な数学的思考力を涵養し、諸現象の中に潜む数学的構造を究明し、合理的に問題を解決できる人材を、物理学コースでは、宇宙から極微の世界にわたる様々な自然現象を理解するための知識と物理的思考法に加え、最先端の研究に関わる計算・計測技術を活用し、現代の高度化した科学技術の幅広い分野で活躍できる人材を、数物連携コースでは、高度な数学、物理学、情報科学の連携教育を行なうことで、幅広い問題解決力を有した人材を育成することを目指します。

求める学生像

左記の教育理念に基づき、下記のような素養・意欲を持つ学生を求めます。

- ・数学や物理学に興味を抱き、その内容を深く学びたいと希望する学生
- ・数学や物理学の学習を通じて得られた知識、技術や方法論を用いて、将来社会において広く活躍する意欲のある学生
- ・さまざまな自然現象や社会現象の中に隠れている原理について強い好奇心を持ち、それに対して理論的あるいは実験的につきつめて明らかにしようとする探究心を持つ学生

数物科学専攻を希望する学生は、学部で履修する数学や物理学の基礎をしっかり身につけている必要があります。それとともに、自然科学全般の基礎的素養とグローバルに活躍するために必須な語学力が必要です。

数学コース

種々の対象には豊かな数学的構造が存在します。数学的構造とは、自然数などの整数構造、演算などの代数構造、対象の図形的把握に不可欠な位相構造・幾何構造・複素構造などをいいます。それらが相互にどのように関連しているかを研究し、それによって対象の構造の全体を把握することを一つの目的としています。最近では、各構造についての研究の深化だけでなく、構造の間の大きな統合がなされつつあります。従来の枠にとらわれない有機的な統合の上に新しい知識を得ることを目指しています。

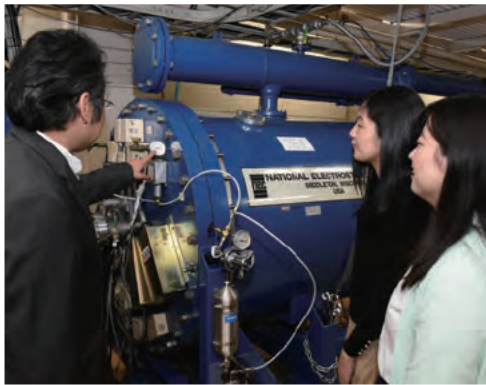
また、種々の現象に内在する動的なものに注視し、微分積分学を基にして、その動きを研究することも目的としています。現象に対する理解を深めるため、現象の新たなモデル化を行い、俯瞰的な見地から種々の現象を認識することに努めています。このような総合的な研究を可能にするため、従来の偏微分方程式論、確率論、フーリエ解析の研究に加え、非線形現象・大域現象の解析などの新たな方向性も取り込み、現象解析の一層の深化を図り、豊かな発展を目指しています。



数学コースでのゼミ風景

物理学コース

物理学の対象は、宇宙から原子核や素粒子のように目に見えないミクロな世界までの広い範囲にわたります。物質の基本的・究極的なミクロ構造の解明とそこに働く相互作用や法則とその体系化、中間に属するメソスコピック系やナノ系の物理現象、マクロな系である物質の諸性質に関する教育研究を行っています。いずれも、理論・実験の両分野が協力して、自然の不思議に対する好奇心と、その解明を目指す強い探究心を育み、関連する技能の修得を合わせて、個性ある優れた研究の創出と、高度専門女性職業人の輩出を目指しています。



ペレトロン（放射線研究室の実験装置）の使用方法の説明を受けている院生



並列計算機を使用した研究の様子

数物連携コース

数学と物理学は、それ自身に内在した学問的興味に従って進化してきましたが、歴史的には互いに緊密に結びついて発展してきました。例えば、17世紀、デカルトの解析幾何学とガリレオによる運動の記述、さらにそれらの延長線上にあるニュートンとライプニッツによる微分積分学の発見およびニュートンによる古典力学の建設などです。このように、数学と物理学は互いにつながりつつ、それぞれ新たな分野を生み出し拡大してきました。本コースでは、このような両学問の関係を意識し教育研究を進めています。



数物連携コースにおける授業風景



数物連携コースにおける授業風景

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程自然科学専攻数物科学講座へ

化学生物環境学専攻

化学生物環境学専攻では、化学コース、生物科学コース、環境科学コースが連携し、専門的な教育と研究の実践を通して、自然科学に関する専門的知識や技能とともに幅広い視点や高いコミュニケーション能力を身につけ、自然科学関連の幅広い分野で研究者や高度専門職業人としてグローバルな活躍ができる人材の育成を目指しています。

教育理念

化学生物環境学専攻では、化学、生物、環境科学の学問領域が連携した研究・教育活動を推進し、物質や生物およびそれらを取り巻く自然環境を総合的にとらえることができる広い視野と正しい倫理観、正確な知識、論理的思考能力をもち、自発的かつ協動的に問題の発掘と解決に取り組むことのできる理系女性人材の育成を目指します。

求める学生像

化学生物環境学専攻では、自然科学全般に興味を持ち、所属するコースで高度に専門的で実践的な研究教育を通して専門知識を修得し、自ら問題点を発掘して思考し解決する能力を身につけ、将来は社会において広く活躍する意欲のある学生の入学を求めます。そのためには、大学の学部において数学や自然科学、あるいは工学や農学など理系の基礎および専門知識を修得していること、実験や実習、演習、卒業研究やセミナーなどを通して問題発掘とその解決に向けた取り組みについて経験を積んでいることが必要です。最先端の科学を研究する上で英語は必要不可欠ですので、英語について十分な能力を備えていることを望みます。また、論理的な日本語で表現するためのコミュニケーション能力も必要です。

化学コース

21世紀の化学の先端分野では専門化および高度化が著しく、並大抵なことではキャッチアップできません。このような状況にあって、大学院修士レベルで自らの周囲の専門化された狭い範囲に限定された知識を持つだけでは、実社会に出てから科学技術のいろいろな分野での自らの発展には十分とはいえません。そこで化学コースでは、現代化学の専門性・高度性を念頭に置き、化学各分野を網羅したカリキュラムを設定し、大学院生の興味を喚起しつつ十分に理解可能なロジックを駆使することによって、高度な現代化学を平明に説き起こすことによって大学院生自身のものとなる基盤的な知識や思考力を培うことを目指しています。さらに、並行して化学コース各専門分野での先端的な学術研究に能動的に日常的に参画し、その経験を通じて「仕事」の能力・適応力を育み、また化学および関連科学技術分野で将来専門的な研究開発等の職業活動が可能になるような専門的なスキルを養い柔軟な応用力を育成します。これら知識基盤の確立と研究活動への参画の両方によって、各分野に応用可能な力を総合的に伸長させます。

化学コースには、「物理化学分野」「有機化学分野」「無機化学分野」の3つの教育研究分野があります。

物理化学分野

分子や分子集合体・構造を電子・原子・分子の視点から説明しようとしています。

有機化学分野

持続可能な社会の構築を目指して、新しい有機分子の合成やその物性の解明、および、新しい有機合成反応の開発を行っています。

無機化学分野

私たちの未来に関する諸問題に金属錯体をキーマテリアルとして挑戦しています。



生物科学コース

生物科学は、近年もお劇的に発展を遂げつつある学問分野のひとつです。また、バイオテクノロジーの利用や生命倫理など生物科学に深く関連する問題について市民社会が判断を迫られる場面も近年ますます増えてきています。生物科学コースでは、さまざまな生物が織りなす生命現象の共通性と多様性を、分子から生態系に至る多層的なレベルで捉える研究の実践と専門教育を通じて、科学的知識や論理的思考法を身につけ、社会で能動的に活躍できる人材を育成することを目指しています。

生物科学コースで学び、研究するためには、生物科学に関する基本的な知識はもちろん、一定の英文読解能力やコミュニケーション能力をもっていることが必要です。そして何よりも、生き物の様々な姿やたらしき、生命の謎を明らかにしたいという強い欲求と情熱をもっていることが重要です。

生物科学コースは、分子細胞生物学分野、個体機能生物学分野、生態学分野の三つの教育研究分野から構成されており、各分野にはそれぞれ複数の教員が所属しています。

分子細胞生物学分野

生体膜の構造と機能、菌類の染色体構造、原生生物の細胞間相互作用、藻類における形態形成運動や多細胞化のしくみ、光合成生物のレドックス応答と生理機能の調節に関する研究などを題材に、生命現象を分子・細胞レベルで解析する研究・教育を行います。

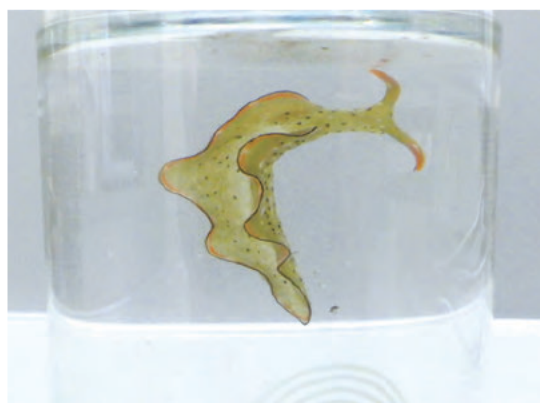
個体機能生物学分野

動物の光受容・神経発生・脳組織形成・行動生理、高等植物の環境応答や組織・器官形成などを題材に、動物や植物など多細胞生物の、個体レベルでの構造や機能に注目した研究・教育を行います。

生態学分野

水生生物の生態と行動、生物多様性の維持機構や保全、顕花植物の繁殖生態とその進化、などを題材に、生態系レベルでの生命現象に注目した研究・教育を行います。

以上のようにそれぞれは個性的な研究を実践している教員間、研究分野間、さらにはコース間での連携と相互補完によって、生物科学コースにおける教育と研究は、全体として個性豊かで高度な専門性と普遍性・学際性の両立を実現しています。



ウミウシ

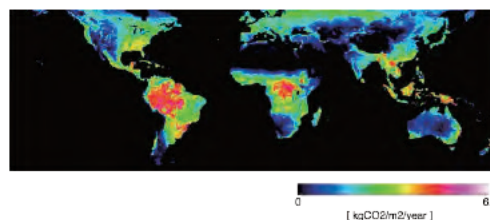
環境科学コース

現在の地球環境は、文明の発達に伴う人類の過度な活動によって、様々な問題に直面しています。それらの問題を理解し、解決するためには高度な専門知識だけでなく、俯瞰的に物事を分析できる幅広い教養が求められます。環境科学コースは、化学生物環境学専攻の3つのコースの一つとして高度な専門教育を行うとともに、分野横断的な学際的研究を推進します。

コースには「地球環境科学分野」「数理生命システム分野」「生物環境学分野」「環境化学分野」の4つの研究分野があります。

地球環境科学分野

衛星からリモートセンシングで観測される地球観測データを分析することによって、地球環境の諸変動の過程を解明します。



衛星データによる純一次生産量の推定結果

数理生命システム分野

ミクロ系からマクロ系に至る環境と生命現象に関する数理的研究を行います。



数理生命システム分野概念図

生物環境学分野

生物と環境との相互作用について深く研究し、地球温暖化・化学汚染・保全といった環境問題に対して生物学的観点から取り組みます。



高山植物のお花畑

環境化学分野

幅広い化学の基礎の上に、最先端の手法を用いて、環境を形作る化学物質の存在状態や性質・環境への影響などを明らかにします。



令和8年(2026年)4月 奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科

修士課程 工学専攻(仮称)の新規設置(予定)について

奈良女子大学は、人間文化総合科学研究科 修士課程に『工学専攻』を新設するため、文部科学省へ設置申請を予定しています。本専攻は、2022年4月に開設した工学部に連なる大学院教育の組織として、複数の分野を自身の専門性から融合してイノベーションを行う人材が希求されている現代社会のニーズに応えるべく、分野横断的な知識に基づいて融合と協創を行うことのできる工学系女性人材を育成します。
(<https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2024news/20250130.html>)

※専攻名称は仮称、開設時期は予定です。※設置計画は予定であり、変更が生じる可能性があります。

設置する研究科	人間文化総合科学研究科 修士課程
設置する専攻名称	工学専攻
開設時期	令和8年(2026年)4月
授与する学位	修士(工学)
収容定員	50人(入学定員25人)

生活工学共同専攻(博士後期課程)

生活工学共同専攻は奈良女子大学とお茶の水女子大学が共同して大学院博士後期課程の教育研究を行う専攻です。このため、生活工学共同専攻の学生はお茶の水女子大学の施設(図書館等)をその大学の学生と同様に使用することができます。

博士後期課程

教育理念

本専攻では、安全・安心で豊かな未来の社会・生活を創造すべく、人間生活における諸課題を柔軟に捉え、生活に根ざした生活者の視点を工学手法に融合させることで研究を展開できる能力を有する女性人材の育成を目的とします。とくに、自立的に研究を展開でき、かつ、指導的役割を担い得る人材育成を目指します。
そのために、生活に関連する諸課題を生活者の視点に立ち、工学諸分野の基礎から応用まで幅広く学ぶことで、新たな分野である生活工学を創出し、高度な学術的發展を目指した教育研究を展開します。

求める学生像

- ・人間と生活環境に関わる現実的諸課題に強い関心を有し、生活工学的観点をもって解決に取り組む意欲・能力を有する人
- ・研究に求められる基礎能力と強い意欲をもって研究者・高度技術者を目指す人
- ・社会人としての基盤を保ちつつ、より高度な専門能力の開発を目指す人
- ・上記に必要な修士相当の学力、ならびに、理工学系諸科目の学力を有する人
- ・研究成果の学術的發展を通じて社会貢献する高い志を有する人

■ 想定される進路

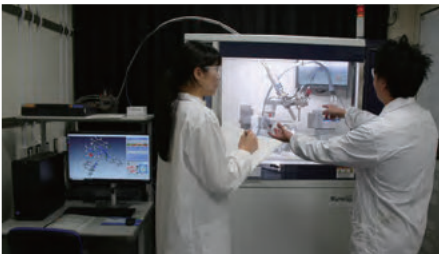
想定される進路としては、研究機関や企業の中核的研究者・グローバルリーダー、大学教員などです。

生活工学共同専攻のカリキュラムの特徴

分野を超えたコラボレーションによって、総合的に解決の方策を見いだす研究者・技術者の育成を目指し、本専攻のカリキュラムは、基礎科目群、専門科目群、専門応用科目群で構成されます。基礎科目群では、生活工学の基盤となる理工系での基礎を修得しつつ、倫理・知財について学びます。専門科目群は各教員の専門分野に関連する科目群です。専門応用科目群は、諸分野のコラボレーション科目で、生活関連課題の工学的解決のための手法を修得します。これらの学修を踏まえ、教員指導のもと博士論文を作成します。

共同専攻の特徴

- ・奈良女子大学から主指導教員と副指導教員(1名以上)、お茶の水女子大学から副指導教員(1名以上)が選ばれます。主指導教員と副指導教員が協力して研究・履修指導を行います。
- ・博士後期課程では、所定の単位を20単位以上修得することを修了要件とします。
- ・長期休業期間の集中講義や双方向TV講義システムを活用した講義、宿舍の優先提供などにより、お茶の水女子大学の授業の履修を支援します。



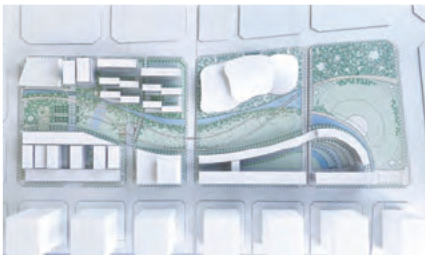
X線結晶構造解析装置を用いた分子構造の解明



電子工作やデータ分析などの要素技術を学ぶ演習



生体医工学エリアの実験室/モーションキャプチャシステム



IT企業のキャンパス計画



グローブボックスを用いたリチウムイオン二次電池評価セルの構築

女性リーダーとして、社会に翔び立つ日に向けて—

大学院・博士後期課程で、磨く。

1. 人間文化総合科学研究科・博士後期課程の目的

■人間文化総合科学研究科・博士後期課程の目的

人間文化総合科学研究科・博士後期課程は、研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を備えた人材を養成することを目的とします。

2. 人間文化総合科学研究科・博士後期課程の各専攻・講座の教育研究内容

学 部	博士前期課程	博 士 後 期 課 程
文学部	人間文化総合科学研究科	人文社会科学専攻
	人文社会学専攻	比較文化学講座
	言語文化学専攻	社会人間学講座
生活環境学部	人間科学専攻	歴史や文学、言語に対する深い専門知識と、自国及び他国、他地域の多様な文化への幅広い学際的な視野にもとづいた研究能力を備えることを目指します。
	食物栄養学専攻	社会、文化、地理環境、人間行動、教育などに関する総合的で高度な知識と理論を十分に備え、個々の領域での独創的かつ専門的な研究能力と実践的な分析能力を身につけることを目指します。
	心身健康学専攻	健全で快適な食生活の創造及び現代の食に関する多様な問題の解決を目的として、食物の栄養性・機能性・安全性・調理加工性やヒトの代謝・免疫機構と関連した研究・教育を行います。
文化情報学部	情報環境学専攻	心身健康学講座
	住環境学専攻	生活環境科学専攻
	生活文化学専攻	情報衣環境学講座
理学部	数物科学専攻	住環境学講座
	化学生物環境学専攻	生活文化学講座
	生活工学共同専攻	数物科学講座
		化学生物環境学講座
		博士前期課程 [※] 博士後期課程

※令和7年10月入学より募集停止予定

開講授業科目 <https://koto.nara-wu.ac.jp/kym2003/syllabussearch.html>

専攻の概要

【博士後期課程】

人文科学専攻

本専攻は、歴史学、言語学、文学、社会学、地理学、心理学、教育学、哲学などの多様な人文系の学問分野から構成されています。これらの高度な専門教育を通して、固有の学問領域の研究を深化させるとともに、これまで分化の方向に発展してきた諸科学を統合する知見、すなわち「諸科学の人的意味づけ」を追求します。

教育理念

人文科学専攻は、歴史学、言語学、文学、社会学、地理学、心理学、教育学、哲学など人文科学系の学問分野における高度な専門知識と判断力を身に付けて新たな領域を開拓し、社会における様々な問題を解決する能力を備えた人材を養成します。

比較文化学講座は、社会事象——言語認識、西欧世界——アジア世界という二つの基軸を立て、歴史学、文学、言語学などの文化に関わる多様な学問分野からこれを比較研究することを目指しています。高度な専門知識と判断力を身に付けて新たな領域を開拓し、社会における様々な問題を解決する能力を備えた人材を養成します。

社会人間学講座は、社会、文化、地理環境、人間行動、心理、教育などの分野に関する高度な専門知識を備え、論理的思考力と規範的判断力によって、主体的かつ協働的に社会の課題解決や福利実現や価値創造に向かう、独創的な研究能力と実践的構想力と行動力を身につけることを目指しています。

各分野の観点を軸にして、環境、社会、文化における人間行動を統合的に探究し、よりよい社会のあり方と生き方の構築に貢献する能力を備えた人材を養成します。



比較文化学講座

本講座においては、高度な知識を身につけ、研究能力を培うために、日本、中国、イギリス、アメリカ、ドイツ、フランスなど各地域の歴史、言語、文学に関する専門科目の授業は基本的に演習形式で行い、また必要に応じて調査やフィールドワークも採り入れています。外国研究では、当該地域の言語を用いた教育も行っています。また、歴史都市「奈良」についての学びを深めるため、国立文化財機構奈良文化財研究所や奈良国立博物館、宮内庁正倉院事務所から客員教員を迎えて、特色ある授業を開講しています。



遺跡出土微細遺物の調査風景（研究室にて）

求める学生像

- ・大学院での研究をもとにして、社会に貢献する意欲と熱意をもつ人
- ・人間の営みとしての文化現象を、情報の観点から分析し研究することに関心をもつ人
- ・ジェンダー・文化振興などの分野での専門的リーダーとして活躍しようとしている人
- ・インクルーシブな社会の実現あるいは文化や産業の振興において、教育・研究機関の研究者、または、行政、地域再生、社会福祉事業、NPO、NGOなどの高度専門職におけるリーダーとして活躍しようとしている人
- ・文献や資料の読解から、実験や調査、研究発表を含む研究活動において、必要な外国語能力を有している人
- ・国際的、特にアジア地域の発展に貢献しようとしている留学生、社会人

大学院の博士後期課程においてこのような志を実現するためには、前提として博士前期課程において修士論文またはそれに相当する学術論文の作成を通じて、上記にある分野の先端的研究に必要な専門知識、問題意識、資質・能力・活用力（思考力、判断力、表現力）、多様性において対話または協働する主体的な姿勢・態度、研究に必要な外国語能力を身につけていることが必要です。

社会人間学講座

本講座は、社会、文化、地理環境、人間行動、教育などに関する総合的で高度な理論と方法論を習得するために、各専門分野に応じた演習形式中心の授業を開講しています。持続可能な社会の構築に貢献する研究のための調査・分析方法の習得やフィールドワークの実践、さまざまな環境における人間行動や心身の在り方を問う研究のための文献・資料の読解や方法論の確立など、社会と人間に関わる多様な授業を展開しています。



茶生産農家の調査（京都府和束町にて）

自然科学専攻

本専攻は、数学、物理学、化学、生物科学、環境科学の5つの研究分野から構成されています。これらはいずれも自然科学の基礎的分野であり、ミクロからマクロまでの様々な階層にわたる複雑多様な自然現象を、様々なアプローチを用いて解析し、その本質を原理的かつ総合的に理解することを目的として発達してきた学問分野です。皆さんは、本専攻においてそれぞれの分野の先端的な教育を受け、自らも研究を進めることにより、その分野の高度な知識を身につけるとともに、新たな研究課題に挑戦し、これまで明らかになっていなかったことを明らかにし、科学の進歩に貢献するという経験をするようになります。

教育理念

自然科学専攻では、自然科学の基盤的学問である数学、物理学、化学、生物科学、環境科学の高度な教育・研究を通して、専門分野に関する高度な知識を基盤に、自ら考え行動することができ、かつ、日々発展している学際的・融合的分野の開拓を進めることができる人材の育成を目指します。その実現のために、専攻に、数学と物理学の教員が協力して教育・研究にあたる数物科学講座と、化学、生物科学、および環境科学の教員が協力して教育・研究にあたる化学生物環境学講座を設けています。

数物科学講座は、数学や物理学の視点から諸現象の理解を進め、その応用に向けた複合的なアプローチについて考える学術研究活動を展開します。そうした経験を通じて、21世紀の高度情報化社会を支える科学技術の発展のために、新たな課題を自ら発見し、自ら解決する能力を持った人材の育成を目指します。

化学生物環境学講座は、化学、生物科学、環境科学の学問領域が連携した学術研究活動を展開し、先端的な学問体系の進化に寄与します。そうした経験を通じて、物質や生物、およびそれらを取り巻く自然環境に関する正しい知識と、それらを総合的にとらえることができる広い視野をもち、論理的な思考能力と正しい研究倫理観を備え、自ら立案した研究課題を独自の視点で解決することのできる理系女性人材の育成を目指します。

求める学生像

自然科学専攻では、次のような学生を求めます。

- ・自然科学全般に興味を持ち、高度に専門的で実践的な学術研究において独創性の高い研究を行うことを志す人
- ・数学、物理学、化学、生物科学、環境科学に関する専門的知識と技能、経験を活かし、大学や独立行政法人研究機関、企業の研究所などにおいて研究や開発に従事することを志す人
- ・数学、物理学、化学、生物科学、環境科学などの基礎科学の素養と自らの研究経験に基づき、学生・生徒が複合的／発展的に考える力を育てることのできるよう高度な指導能力を備えた教育者を志す人
- ・自ら新たな問題を発掘しそれを基礎科学的観点から解決しようとする意思と能力を備えた社会人となることを志す人

数物科学講座

数物科学講座においては、基礎科学的視点と応用科学的視点が深く関わる自然現象、あるいは人間と自然や社会が関わる新しいタイプの現象を対象として、諸現象の中に潜む法則や原理の発見、論理構造の解明、さらには未知の現象の予測を行うといった、数理的方法を用いた教育研究を行います。現代の高度情報社会を支えるべく科学技術が発展していくためには、新たな技術革新が不可欠と考えられます。そのためには諸現象の理解や応用への複合的なアプローチについて教育研究を行うことが必要となります。このような視点に基づき本講座では、数学と物理学が連携した高度、かつ最先端の教育・研究を通じて、基礎科学としての数学と物理学の高い水準の専門的知識と技能を備え、かつ、広い視野と深い専門知識を基盤にして諸現象を理解し課題を解決する能力と、現代社会の中で活躍できる力を身につけた人材の育成を目指します。



実験データ解析中の風景

化学生物環境学講座

本講座は、分子レベルで繰り広げられる化学物質の反応・物性・機能性、あるいは生体分子や遺伝子の振る舞いといったミクロな事象から、生物の器官や組織、生物個体とその集団が示す構造と機能などのややマクロな事象、更にはそうした生物の活動が展開されている地球環境の過去から現在への変化などグローバルな事象まで、時間的、空間的に幅広い範囲におよぶ、自然界の事象を対象とした研究と教育を行います。化学コースでは分子を基盤とする新たな反応場や機能の開発、ミクロな世界での状態変化のダイナミクス、あるいは化学反応や合成による物質変換などについて理論・実験の両面から教育研究を行います。生物科学コースでは生体分子、細胞、組織、生物個体やその集団が示すさまざまな生物現象と、生物間や生物-非生物間の相互作用についての解明を目指した教育研究を行います。環境科学コースでは、人工衛星データなどを用いた全球レベルの地球環境変動や、生物集団の構造・進化と物理化学的環境との関わりに関する、数理的手法による理解を目指した教育研究を行います。

3つのコースが連携して展開される教育研究により物質、生物、地球環境の調和の取れた発展に向けて、高度な知識を身につけ、社会に貢献できる人材を養成することが、本講座における目標です。



グローブボックス中での合成実験の様子

生活環境科学専攻

本専攻は、生活環境学部および博士前期課程生活環境科学系各専攻を基盤とする、食物栄養学講座・心身健康学講座・情報環境学講座・住環境学講座・生活文化学講座の五講座によって構成される、総合系複合領域です。生活に根ざした理論と実践の総合的学知を提供することを通じて、幅広い知識と高度な研究能力・技術を持ち、かつ女性リーダーとしての資質に富んだ、高度専門職業人を養成します。

教育理念

生活環境学は理論と共に実践を重視する総合的学知である点に大きな特性があり、研究を通じて人々のよりよい生活の実現に寄与することをめざしています。生活環境学専攻では、私たちの生活のなかに課題を発見する力、その課題を広い視野から多角的に探求し、体系化していく論理的思考力、そして研究成果を現実社会に還元していく実践力を涵養する教育を行っています。私たちはこのような教育を通じて、高度な研究能力・知識・技術を持つだけでなく、様々な場所でリーダーシップを発揮できる、真の高度専門職業人を育成します。

求める学生像

- ・ 個々の学問領域の基礎となる専門知識を有する人
- ・ 生活における諸問題を学際的に深く探求しようとする人
- ・ 既成の学知の再構築や、新しい研究課題の開拓に意欲を持つ人
- ・ 女性リーダーとしての豊かな資質をもつ高度専門職業人となって社会貢献することをめざす人
- ・ 国際社会に貢献することをめざす人

食物栄養学講座

わが国では、急速な高齢化を経て、生活習慣病や認知症及び要介護状態等になる者の増加等が深刻な社会問題となっています。進展する高齢化と疾病構造の変化の中で、社会保障制度の持続可能性を高めるためには、生活習慣病等の予防に重点を置いて健康寿命の延伸等を図ることが極めて重要です。これら食物栄養に関する諸課題の解決のためには高度な専門性と豊かな学識が必要とされており、健康寿命の延伸に食物栄養学の果たすべき役割は重大です。

本講座では、健全で快適な食生活の創造及び現代の食に関する多様な問題の解決を目的として、食物の栄養性・機能性・安全性・調理加工性やヒトの代謝・免疫機構と関連した研究・教育を行います。また、疾病予防の領域において、医学、農学、薬学、情報科学、食生活学、社会医学を基盤として、分子・細胞レベルから生体、さらには人の集団を対象とする疫学研究まで、食物栄養学を俯瞰する視点からの研究・教育を行います。これらによって、国内外における食物栄養学領域の研究を先導する女性研究者や、高度専門職業人として当該職域を牽引し社会に貢献する人材を養成します。

心身健康学講座

人々が豊かな生活を営むためには、心身ともに健康であることが基盤となります。このため、心身の健康を担保する生活環境や社会的環境に対するニーズは極めて高くなっています。このような社会的ニーズに応えるためには、心と身体に関する幅広い専門的知識に加えて、科学的視点と総合的人間理解の視点から実践的応用力を身につけ、今日的諸問題の発見および解決に貢献できる研究者及び実践力のある高度な専門的人材を養成する必要があります。

本講座は、心身の健康を生活環境や生活習慣の視点から科学的に研究する生活健康科学の領域、身体や運動行動を学際的視点で研究するスポーツ科学の領域、そして、心の成長や課題を科学的視点から研究する臨床心理学の領域から構成されています。多様な分野からのアプローチと本学の特徴である女性の視点を生かした高度な研究により、心身の健康に関する今日的諸問題の発見および解決に貢献できる人材を養成します。



産学連携フェアへの出展



市民参加型公開講座

情報衣環境学講座

本講座は、素材学や管理学の分野に代表される衣環境学に関する領域と人工知能・コンピュータシステムに代表される情報通信科学に関わる領域の2つの領域から構成されています。現在の日本社会が抱える課題の一つである女性技術者・研究者や社会で活躍する女性リーダーの育成という観点からは、従来の理学や工学の基盤を更に強化し、全体の学術的基盤を底上げしながら、理学・工学的な手法で再認識された知識や解決方法を生活者や消費者に効率的に還元することによって、生活環境をより質的に向上させる担い手の育成が期待されています。また、経験に裏付けられた直感や感性に加え、緻密なデータ処理能力やデータ解析能力を身につけた、普遍的真理を追究する研究能力を持つ人材の養成も期待されています。本講座は、このような社会の要請に応えるために教育研究を行います。

衣環境学の領域では、高度な知識を活かした独創性の高い界面化学の基礎研究への動機づけを高め、管理学と関わる洗浄科学、界面化学・物理化学・素材学と関わる繊維構造学、衣環境材料学などの教育研究の場を提供します。生活情報通信科学の領域では、最先端ICTの知識と技術を活かした独立性の高い研究開発への動機づけを高め、コンピュータシステム関連分野における人工知能プロセッサを含むアーキテクチャならびにシステムソフトウェアの教育研究、ソフトウェア工学関連分野におけるプロジェクトマネジメントを中心とした情報システムの設計開発に関わる教育研究、アプリケーション関連分野におけるライフコンピューティングを中核に据えた人工知能や知的エージェントの教育研究、情報基礎関連分野における計算理論に関わる教育研究、などの場を提供します。

住環境学講座

住環境学は、安全・安心・快適な生活を可能とし、自然環境とも共生可能な住環境(生活空間)を総合的に創り上げることを目指した学問体系です。第二次世界大戦後の復興、高度経済成長を経て世界有数の経済大国となった我が国ではありますが、我々の暮らしを支える生活空間は今なお数多くの課題を抱えています。まず広いスケールの問題に目を向けると、地球温暖化に代表される気候変動に伴い発生頻度の増した台風・大雪などの極端気象、並びに将来の発生が危惧される大規模地震等に対応するハード(老朽化インフラの修繕など)、ソフト(災害対応システム整備、地域住民への情報提供・啓発など)両面での対応が求められています。また、視点を国内に移すと、少子高齢化に伴う高齢化・人口減少社会への対応、高度情報化社会の進展への対応、男女共同参画社会の構築、家族形態の多様化への対応など、数多くの課題に直面しています。これらの課題は今後の国内外の情勢、社会の発展、個人の嗜好・ライフスタイルの変化等に従い進展・変容するため、これらを的確に把握し、対応することのできる自発的な市民の育成、並びに社会の形成が求められています。

本講座は、日常な生活から地球環境に関わる諸問題を生活者の視点から総合的に捉え、社会が求める安全で安心できる住まい、かつ快適で魅力的な住環境という要請に応え、住宅から都市にいたる多様な環境と人間生活のあるべき関係に配慮した住環境の構築と管理運営に関する幅広い知識と技能を有する高度専門職業人や研究者を養成します。本講座では、社会科学的方法を援用する住居論をはじめ、政策論、環境工学、構造工学、管理学、デザイン論などの多様な方法を用いた幅広い教育研究を実施します。

生活文化学講座

2023年の男女格差を指数化した「ジェンダーギャップ指数」のランキングにおいて、日本は146か国中125位で2006年に公表が開始されて以降最低(政治分野では当該調査対象国中最低水準に近い138位)となり、日本社会のジェンダーギャップへの取り組みは依然国際的には功を奏しているとは評価し難い水準であることが浮き彫りになっています。ダイバーシティを推進し女性リーダーの育成をミッションとする本学における生活文化学講座の役割は、このデータが示すように社会にあまねく存在しつつ現在まで焦点化あるいは可視化されてこなかったような諸課題に取り組むことです。本講座では、私たちの生活のあらゆる側面を、それらと不可分の文化的諸要素との相互関係に視点を置いて分析するという学術的立場を背景とし、学部および大学院博士前期課程教育で実践してきたカリキュラムを博士後期課程にも反映させることを企図しています。この視点による学部・博士前期課程・博士後期課程の教育プログラムの貫徹によって、イノベティブにグローバル課題を解決する実践的能力を有する女性人材育成という課題に応えることが可能になると確信しています。以上のごとく本講座は生活環境にかかわるあらゆる事象のなかに研究対象を見出すことを特徴としており、発見した問題を人文科学もしくは社会科学諸領域の研究手法で分析します。したがって学問分野は歴史学、家族社会学、社会心理学、法学、経済学、ジェンダー論と多岐にわたるという点にもっとも特徴があります。



連携市町村に赴いての地域貢献事業

教員の研究領域

以下の本学ホームページよりご確認ください。スマートフォンの場合はQRコードからもご確認いただけます。
なお、年度途中で変更が生じた場合も以下ホームページでお知らせいたします。
大学院人間文化総合科学研究科ホームページ（専攻構成・担当教員・開講科目）
(<https://www.nara-wu.ac.jp/daigakuin/senkou/c00.html>)



1 取得できる学位及び資格

本学大学院を修了した場合には、専攻に応じ次のとおり学位を取得できます。

【博士前期課程】

専攻	学位名	学位に付記する専攻分野の名称
人文社会学専攻	修士	文学又は学術
言語文化学専攻		
人間科学専攻		
食物栄養学専攻		生活環境学、学術又は家政学
心身健康学専攻		
情報環境学専攻		
住環境学専攻		
生活文化学専攻		
数物科学専攻		理学又は学術
化学生物環境学専攻		
生活工学共同専攻*		工学、生活工学又は学術

※令和7年10月入学より募集停止予定

【博士後期課程】

専攻	学位名	学位に付記する専攻分野の名称
人文科学専攻	博士	文学、社会科学又は学術
生活環境科学専攻		生活環境学、社会科学、情報科学、理学又は学術
自然科学専攻		理学又は学術
生活工学共同専攻		工学、生活工学又は学術

博士前期課程については、専攻に応じて次の教員免許状等の所要資格を取得することができます。
ただし、教員免許状（専修免許状）取得には、当該教科等の一種免許状を既に取得している又は取得要件を満たしている必要があります。

専攻	専修免許状					その他
	高等学校教諭	中学校教諭	小学校教諭	幼稚園教諭	栄養教諭	
人文社会学専攻	地理歴史、公民	社会				
言語文化学専攻	国語、英語	国語、英語				
人間科学専攻			○	○		
食物栄養学専攻	家庭	家庭			○	
心身健康学専攻	家庭、保健体育	家庭、保健体育				
情報環境学専攻	情報					
住環境学専攻	家庭	家庭				
生活工学共同専攻*	家庭	家庭				
生活文化学専攻	家庭	家庭				
数物科学専攻	数学、理科	数学、理科				
化学生物環境学専攻	理科	理科				

※令和7年10月入学より募集停止予定

2 単位互換制度

本学大学院は次に示す大学院と単位互換協定を締結しています。

これらの大学院の研究科で修得した単位は、博士前期課程にあつては10単位、博士後期課程にあつては4単位をそれぞれ超えない範囲で、本学大学院において履修したものとして認定することができます。

大学院名	研 究 科 名
お茶の水女子大学大学院*	人間文化創成科学研究科
奈良先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科
奈良教育大学大学院	教育学研究科
神戸大学大学院*	人文学研究科
大阪大学大学院	理学研究科
京都大学大学院	文学研究科、人間・環境学研究科
奈良大学大学院	文学研究科、社会学研究科
帝塚山大学大学院	人文科学研究科、経済学研究科、法政策研究科

*博士後期課程は、お茶の水女子大学大学院と神戸大学大学院の2大学になります。

また、留学先大学への授業料等を不徴収とする学生交流協定大学への交換留学制度もあります。

ただし、本学への授業料の納付は必要となります。

留学先で取得した単位は本学が認定すれば、本学の単位として互換することができます。また、この留学期間は本学における在学期間として認められます。

国 名	学生交流協定大学名
アメリカ	リーハイ大学
イギリス	レスター大学
インドネシア	インドネシア大学、ガジャマダ大学、アイルランガ大学理工学部*、アイルランガ大学人文学部*、ジョグジャカルタ州立大学*
オーストリア	グラーツ大学
韓国	梨花女子大学、ソウル大学生生活科学部*、忠南大学建築学部*、釜山大学
タイ	チェンマイ大学、タマサート大学理工学部*
台湾	東海大学、台湾大学文学院*、東呉大学
中国	西安交通大学、西安工程大学、蘇州大学、大連理工大学、南京大学、武漢大学、香港理工大学
ドイツ	トリアー大学第2文学部*
ニュージーランド	リンカーン大学
バングラデシュ	ダッカ大学、チッタゴン大学、バングラデシュ農科大学
フィリピン	フィリピン大学ディリマン校
フランス	パリ大学
ベトナム	トウイロイ大学、ハノイ大学、ハノイ教育大学、ハノイ貿易大学、ベトナム国家大学ハノイ 外国語大学、ベトナム国家大学ハノイ 人文社会科学大学、ベトナム国家大学ハノイ 自然科学大学、ハノイ理工大学応用数学情報学部*、ベトナム高等数学研究所*
ベルギー	ルーヴェン大学
ポーランド	キャロル・マルチンコウスキー・ボズナン医科学大学
ロシア	ロシア人民友好大学

* 部局間交流協定大学

3 長期履修学生制度

本学大学院では、平成16年4月から「長期履修学生制度」を導入しています。

この制度は、職業を有している、あるいは育児、長期介護、病気等のために一般の学生に比べて研究活動・学習活動への時間が限られるため、標準の修業年限（博士前期課程は2年、博士後期課程は3年）で修了することが困難な学生を対象に、事情に応じて長期の在学期間（博士前期課程は最長4年、博士後期課程は最長6年）を計画的に設定して履修することができる制度です。

長期履修学生として認められた場合の授業料は、標準の修業年限に支払うべき授業料総額を、あらかじめ認められた修業年限で除した額をそれぞれの年（学期）に支払うこととなります。

【授業料の納入例（令和7年度入学の場合）】

区 分		1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	6 年目	合 計
博士前期課程	標準の修業年限 (2年)の場合	年 間	535,800	535,800				1,071,600
		半期分	267,900	267,900				
	2年6月の場合	年 間	428,640	428,640	214,320			1,071,600
		半期分	214,320	214,320				
	3 年の場合	年 間	357,200	357,200	357,200			1,071,600
		半期分	178,600	178,600	178,600			
	3年6月の場合	年 間	306,180	306,180	306,180	153,090		1,071,630
		半期分	153,090	153,090	153,090			
	4 年の場合	年 間	267,900	267,900	267,900	267,900		1,071,600
		半期分	133,950	133,950	133,950	133,950		
博士後期課程	標準の修業年限 (3年)の場合	年 間	535,800	535,800	535,800			1,607,400
		半期分	267,900	267,900	267,900			
	3年6月の場合	年 間	459,260	459,260	459,260	229,630		1,607,410
		半期分	229,630	229,630	229,630			
	4 年の場合	年 間	401,850	401,850	401,850	401,850		1,607,400
		半期分	200,925	200,925	200,925	200,925		
	4年6月の場合	年 間	357,200	357,200	357,200	357,200	178,600	1,607,400
		半期分	178,600	178,600	178,600	178,600		
	5 年の場合	年 間	321,480	321,480	321,480	321,480	321,480	1,607,400
		半期分	160,740	160,740	160,740	160,740	160,740	
	5年6月の場合	年 間	292,260	292,260	292,260	292,260	292,260	1,607,430
		半期分	146,130	146,130	146,130	146,130	146,130	
	6 年の場合	年 間	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	1,607,400
		半期分	133,950	133,950	133,950	133,950	133,950	

また、新入生だけでなく、在学中に条件が変化した在学学生も収容定員内の範囲で長期履修コースに申請することができます。ただし、在学中に長期履修学生として認められた場合は、認められた履修期間により算出された授業料を許可された翌年度から支払うことになります。

【在学中に長期履修学生として認められた場合の納入例】

区 分		1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	6 年目	合 計
博士前期課程	1回生在学中 に4年の長期 履修を認めら れた場合	年 間	535,800	267,900	267,900	267,900		1,339,500
		半期分	267,900	133,950	133,950	133,950		

※上記授業料の金額は、令和7年度授業料の金額に基づき計算しており、授業料の改定があった場合には、改定時から改定後の授業料が適用されます。

4 再チャレンジ型女性研究者支援制度（博士後期課程）

再チャレンジ型女性研究者支援制度とは、博士後期課程中途退学者向けの課程博士取得促進プログラムです。博士号未取得者のうち、本学又は他大学の大学院博士後期課程に休学期間を除き1年（長期履修学生の場合は1年相当期間）以上在学し、ライフイベント等（結婚、出産、子育て、親族の介護・死亡、就職・転職、病気等）により退学した者を対象として、課程博士の取得を促進する制度（「再チャレンジ型女性研究者支援制度」）を平成31年度入学者から導入しました。

再チャレンジ型女性研究者支援制度により入学する者からは、入学料を徴収しません。また、入学前の既修得単位の認定も行います（上限は10単位）。なお、従来の学生と同様に、長期履修学生制度や教育方法の特例制度も、申請することができます。https://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/challenge.html

5 博士前期課程修了者博士号取得支援制度（博士後期課程）

博士前期課程修了者博士号取得支援制度とは、本学大学院博士前期課程又は修士課程を修了し、1年以上の社会経験を経た者を対象として、本学博士後期課程への入学と博士号の取得を支援する制度です。

博士前期課程修了者博士号取得支援制度により入学する者からは、入学料を徴収しません。また、長期履修学生制度や教育方法の特例制度も申請することが出来ます。

本支援制度は2020年度入学者から適用しています。<https://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/d-support.html>

6 奈良女子大学次世代研究者育成プログラム SGC-NEXUS (博士後期課程)《SGC Shattering the Glass Ceiling ～ガラスの天井を超え、社会や後進とのつながりを築いていくあなたを応援します～》

本学大学院では、優秀な女子学生が経済的負担や学位取得後のキャリアパスに過大な不安を抱えることなく、博士後期課程へ進学し研究できる体制を構築することを目的として、先行する2つのプログラムを改編し、2024年度より「奈良女子大学次世代研究者育成プログラム SGC-NEXUS」という新たなプロジェクトに取り組んでいます。このプロジェクトでは、学生への多面的な支援（経済的支援、研究力向上支援、キャリアパス支援）を行います。詳細は、本学キャリア開発支援本部ホームページ（<https://cdpd.nara-wu.ac.jp>）を参照してください。

7 教育方法の特例制度

博士後期課程では「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」の制度を実施しています。

この制度は、入学時又は入学後において学業に専念できない事情を有する者に対して、教育上特別の必要があると認められる場合で、かつ、受入側である専攻の事情や教育環境が許す場合には、その者の事情を考慮し、夜間その他特定の時間又は時期（夏期休業など）において授業又は研究指導を行うものです。

8 入学料・授業料免除及び奨学金

入学料の免除等

経済的理由により入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合、入学料の全額あるいは半額を免除、または納付を一定期間猶予する制度があります。

授業料の免除等

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合、授業料の全額あるいは一部の額を免除、または納付を一定期間猶予する制度があります。また、2025年度から博士後期課程の学生に対する授業料免除を大幅に拡充します。詳細は大学ホームページ（https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/campuslife/scholarship/doctor/doctoral_program.html）を参照してください。

奨 学 金

（1）日本学生支援機構の奨学金

独立行政法人日本学生支援機構が、教育の機会均等に寄与するため学資の貸与等を行い人材育成に資することを目的として、経済的理由により修学に困難がある優れた学生等に対して奨学金を貸与しています。卒業・修了後に返還された奨学金は、後輩の奨学金として再び活用されます。無利子の第一種奨学金と有利子の第二種奨学金があり、詳細は、日本学生支援機構のホームページ（<https://www.jasso.go.jp>）を参照してください。

（2）地方公共団体や財団法人等の奨学金

地方公共団体や財団法人等民間育英団体が募集する奨学金制度があり、大学に案内が届くほか、多くがホームページ等により公募がなされます。

近年本学へ募集の周知依頼があった主な奨学金（大学院生対象分）は次のとおりです。

- ・（公財）戸部真紀財団（給付型）
- ・（公財）京都府城陽市辻教育振興奨励金（給付型）
- ・（公財）帝人久村奨学会（貸与型）
- ・（公財）吉田育英会ドクター21奨学生（給付型）

9 充実した博士後期課程学生への経済的支援

1 日本学術振興会の特別研究員に対する授業料免除

本学学生が日本学術振興会の特別研究員を積極的に目指すことを目的として、特別研究員に採用された者は、採用されている期間において納付すべき授業料の全額を免除する制度を設けています。

2 奈良女子大学次世代研究者育成プログラム SGC-NEXUS

本学は令和6年度から科学技術振興機構(JST)の「次世代研究者挑戦的研究プログラム(新 SPRING)」の実施機関として採択され、「SGC-NEXUS」を創設しました。この制度は、優秀な女子学生が経済的負担や学位取得後のキャリアパスに過大な不安を抱えることなく、博士後期課程へ進学し研究できる体制を構築することを目的とし、以下の経済的支援を行っています。

「SGC-NEXUS」の経済的支援

研究奨励費：20万円／月（最長3年間）

研 究 費：18万円／年間

3 ウェスタンデジタル奨学金

ウェスタンデジタル合同会社から奈良女子大学なでしこ基金に寄附された寄附金をもって、「ウェスタンデジタル奨学金」が創設されました。この奨学金は、理工系分野の学修に意欲のある優秀な者に支給し、研究意欲の促進および有為な理工系人材の育成に資することを目的としています。

奨 学 金：年額40万円の奨学金を3年間支給

4 博士後期課程進学支援授業料免除

博士後期課程における導入期に経済的な不安を取り除き、研究に専念できることを目的とし、博士後期課程1年次に在学する者で研究遂行のために授業料を免除することが相当と認められる場合、授業料の半額を免除する制度があります。SGC-NEXUSに採用され、研究奨励費（年間240万円）を支給される者以外は希望者全員を対象としています。

5 優れた業績等による授業料免除

優れた研究活動の推進を目的として、研究遂行のため授業料を免除することが相当と認められる場合は、納付すべき授業料が全額又は一部免除される制度があります。博士後期課程進学時に日本学術振興会の特別研究員やSGC-NEXUSに採用されなかったとしても、その後の研究活動による業績等により博士後期課程2年次または3年次において授業料が免除されます。

10 キャリア形成支援

社会の第一線で通用する 「キャリア」と「自立心」を育てる

大学院生が修了後、社会の第一線で活躍できる高度専門職業人、研究者、教育者となるために、本学では在学時から将来を見据えてキャリアを形成・開発するとともに、自立した人間として考え、判断し、行動できる力を養っています。

1 年間を通じた「就職活動支援プログラム（行事）」

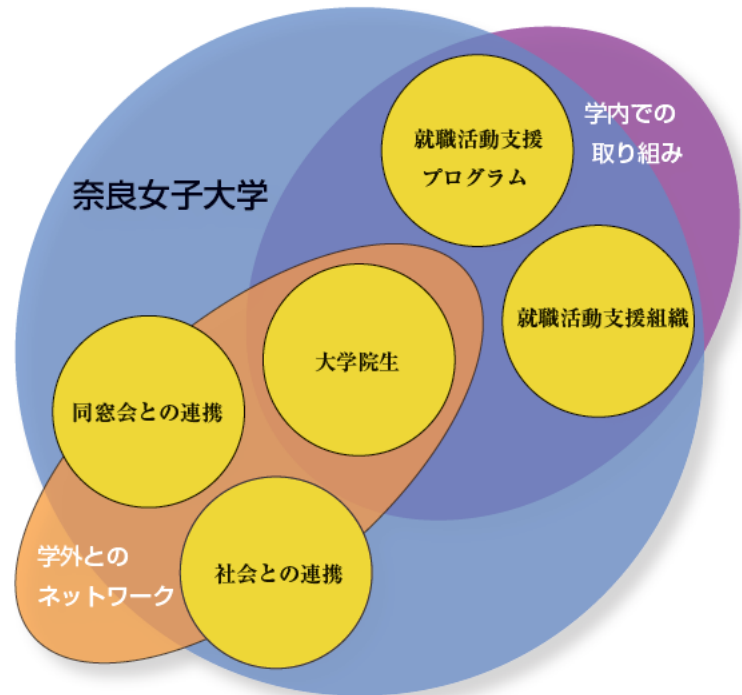
より効果的な就職活動ができるように、年間を通じて各種の就職活動支援プログラム（行事）を実施しています。なかでも学内合同企業説明会は、学生に最も関心が高く、この説明会を通じて企業理解を深めています。

一般就職対策の主な講座

自己分析講座、業界・企業研究講座、エントリーシート対策講座、ビジネスマナー講座、面接対策講座、理系学生向け講座、学内合同企業説明会、グループディスカッション実践講座 など

教員・公務員採用試験対策の主な講座

教員・公務員採用試験対策講座、国家・地方公務員採用試験説明会、公立学校教員採用試験説明会 など



2 全学挙げてバックアップ「就職活動支援組織」

学内に教員・事務職員で構成された就職支援部門を設け、全学挙げて学生の就職活動を支援するとともに、キャリアコンサルタントの資格を持つキャリアアドバイザーが、学生の進路や就職活動の個別相談を対面・オンライン双方で行うなど、学生一人ひとりの就職活動をバックアップしています。

3 在学時に社会体験「社会との連携（インターンシップ）」

企業と連携して中長期の研究インターンシップを実施する一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会（C-ENGINE）に参画しています。

また、正課インターンシップ科目「実践型キャリア教育プログラムⅡ」を開講し、採用・連携実績のある企業・団体を受入先とした就業体験を含む5日間以上のプログラムを行う他、地方自治体や民間企業が実施するインターンシップにも、数多くの学生が実習生として積極的に参加しています。

4 全国に広がるOGネットワーク「同窓会との連携」

本学には日本全国に卒業生の同窓会「佐保会」が組織されています。佐保会では「OGによる就職支援活動」「佐保会東京支部による就職懇談会」など、各界で活躍するOGのネットワークを活かした支援活動を積極的に行っています。

11 学業・研究とライフイベントの両立、キャリア開発支援

学生から、女性研究者まで 育児、介護、キャリア開発まで 男女共同参画推進機構は心強い味方です

多様な大学院生、とりわけ育児や介護等のライフイベントと、学業・研究の時期が重なっている方が、どちらも諦めることなく、ご自身のキャリアを築くための支援をするのが、男女共同参画推進機構です。

1 学業・研究・仕事と育児・介護等を両立するために

・子育て支援システム「ならっこネット」

支援対象である本学関係者の学業・研究・仕事と出産・子育ての両立を支える、子どもの預かり・送迎等のサポートを行います。ダイバーシティ研究環境支援本部が開発したWebシステム「Webならっこ」を介して、利用者は、登録サポーターへの支援依頼から終了までをPCやスマートフォン等でフォローできます。通常（健康時）託児支援に加えて、病児・病後児保育支援の運用をしています。写真は学内での子どもの預かり支援のための専用託児ルーム「ならっこルーム」です。



ならっこルーム

・奈良女子大学「育児奨学金」

育児中の本学学部及び大学院に在籍する正規学生を支援しています。

【支援対象】 奈良女子大学子育て支援システム「ならっこネット」に登録・利用がある方

【支援内容】 半年ごとに利用経費の実費を授与（上限あり）。ただし、利用者の子どもの年齢が小学6年生以下に限ります。申請窓口は学生生活課学生支援係です。

・ワークライフバランス支援相談室

カウンセラーが、学生・留学生、教職員の相談を幅広く受けています。たとえば、思春期から更年期までのこころとからだの健康相談、妊娠・出産・育児・家族に関する相談、介護（高齢者・障がい者）に関する相談、生活環境や研究環境に関する相談など。

2 大学院生、ポストドクターに特化したキャリア開発支援

男女共同参画推進機構の中に位置づけられた、キャリア開発支援本部が、大学・公的研究機関や民間企業をはじめ、様々な分野で活躍できる女性人材の育成をサポートします。

・研究インターンシップ

主に以下の研究インターンシップのサポートをしています。

【C-ENGINE 研究インターンシップ】

産学協働イノベーション人材育成協議会による博士前期・後期課程学生を対象としたもので、中長期（1か月程度が多い）のテーマが主流。

【ジョブ型研究インターンシップ】

ジョブ型研究インターンシップ推進協議会による博士後期課程学生のみを対象としたもので、有給、長期（2か月以上を推奨）であることが特徴。



インターンシップ（社内成果発表会）

・キャリア相談・自己分析セミナー

就職活動や進路についての相談に加え、自己分析セミナーでは「キャリア」を幅広い概念としてとらえ、自分自身をていねいに見つめ直すことで「個人の特性を活かした働き方・生き方探し」を支援します。

・博士キャリア開発支援制度（DCD 支援制度）・英語論文校閲経費支援

博士後期課程学生と博士研究員の就職活動、学会発表の交通費支援（DCD 支援）や英語論文校閲経費の支援を行っています。

・各種イベントや授業の企画・実施

キャリア形成や研究力向上につながる各種イベントや、博士後期課程の授業の企画・実施を行っています。これらを通じて、大学院生が研究で身につける「トランスファラブルスキル（転用可能な能力）」の意識化・修得を支援します。

・その他の各種支援

SGC-NEXUS プログラムという博士後期課程学生に対する経済的支援やキャリアパス支援、学振特別研究員申請支援等に関わる活動も行っています。

12 修了者の進路

区 分			修了者数	内 訳						
				大学院 等進学	教員 (大学、短大)	教員 (幼小中高)	研究者	公務員	企業等	その他
令和5 年度修了者	博士前期課程	人文社会学専攻	8	1	1	0	0	1	3	2
		言語文化学専攻	13	0	0	3	0	1	5	4
		人間科学専攻	9	0	0	1	0	3	5	0
		数物科学専攻	34	5	0	1	5	1	22	0
		化学生物環境学専攻	48	5	0	1	10	3	26	3
		食物栄養学専攻	14	2	0	0	2	1	8	1
		心身健康学専攻	18	3	0	0	3	5	7	0
		情報衣環境学専攻	13	0	0	0	2	0	11	0
		住環境学専攻	19	1	0	0	2	2	13	1
		生活文化学専攻	4	1	0	0	0	0	3	0
		生活工学共同専攻	12	3	0	0	3	2	4	0
	博士後期課程	比較文化学専攻	4	0	1	0	0	0	1	2
		社会生活環境学専攻	5	0	2	0	0	0	0	3
		共生自然科学専攻	1	0	0	0	0	0	1	0
		人文科学専攻	1	0	0	0	0	0	1	0
		生活環境科学専攻	1	0	0	0	1	0	0	0
自然科学専攻	4	0	0	0	0	0	1	3		
令和4 年度修了者	博士前期課程	人文社会学専攻	15	2	0	1	0	2	8	2
		言語文化学専攻	14	1	0	6	0	1	1	5
		人間科学専攻	12	3	0	0	3	0	6	0
		数物科学専攻	35	2	0	2	3	3	23	2
		化学生物環境学専攻	39	0	0	0	13	1	24	1
		食物栄養学専攻	9	1	0	0	0	1	6	1
		心身健康学専攻	17	1	0	1	2	7	6	0
		情報衣環境学専攻	9	1	0	0	0	0	8	0
		住環境学専攻	21	2	0	0	0	1	12	6
		生活文化学専攻	4	0	0	0	0	0	2	2
		生活工学共同専攻	15	1	0	0	4	0	10	0
	博士後期課程	比較文化学専攻	3	0	0	0	0	0	0	3
		社会生活環境学専攻	2	0	0	0	0	0	0	2
		自然科学専攻	4	0	0	0	2	0	1	1
		共生自然科学専攻	2	0	1	0	0	0	0	1
		生活工学共同専攻	1	0	0	0	0	0	1	0
生活環境科学専攻	1	0	0	0	0	0	0	1		
令和3 年度修了者	博士前期課程	人文社会学専攻	16	2	0	2	0	1	5	6
		言語文化学専攻	6	2	0	0	0	0	3	1
		人間科学専攻	9	0	0	1	0	3	4	1
		数物科学専攻	31	4	0	1	2	1	22	1
		化学生物環境学専攻	51	4	0	1	15	3	25	3
		食物栄養学専攻	12	0	0	0	3	3	6	0
		心身健康学専攻	16	0	0	0	0	5	11	0
		情報衣環境学専攻	11	2	0	0	0	0	8	1
		住環境学専攻	28	1	0	0	0	2	14	11
		生活文化学専攻	2	1	0	0	0	0	1	0
		生活工学共同専攻	10	0	0	0	3	1	5	1
	博士後期課程	比較文化学専攻	4	0	0	0	0	0	0	4
		社会生活環境学専攻	4	0	2	0	0	0	0	2
		複合現象科学専攻	3	0	0	0	0	0	2	1
		生活工学共同専攻	2	0	0	0	0	0	1	1
		生活環境科学専攻	1	0	1	0	0	0	0	0

※「その他」欄は、家事従事者、未定者、不明者などである。

13 大学院修了者の主な就職先企業等名一覧

(近年実績)

博士前期課程	人文社会学専攻	京都市　せとうち観光専門職短期大学　パーソルワークスイッチコンサルティング(株) 大阪ガスビジネスクリエイト(株)
	言語文化学専攻	木津川市　福井県教育委員会(高等学校)　西大和学園中学校・高等学校 DXCテクノロジー・ジャパン(株)　(株)両備システムズ　(株)アップ教育企画 本州四国連絡高速道路(株)　(医)白岩内科医院
	人間科学専攻	内閣府　神奈川県　明石市　香川県教育委員会(高等学校)　(株)明学舎 (一社)公心会あいち保健管理センター　(福)晋栄福社会　サバイ(株)　(医)フォスター
	食物栄養学専攻	奈良市　武田薬品工業(株)　(一財)日本食品分析センター　(株)ニッスイ WDB(株)エウレカ社　中外製薬(株)　ダイキン工業(株)　(株)ラキール　(株)インテージ 味の素(株)　パナソニック(株)
	心身健康学専攻	東京都　大阪市　姫路市　豊中市　(株)ワールドインテック　奥野製薬工業(株)　京セラ(株) 伊藤ハム(株)　日本電信電話(株)　ミズノ(株)　社会医療法人居仁会　総合診療センターひなが ダイハツ工業(株)　おかざきよろず心のクリニック　(株)ワコール
	情報衣環境学専攻	(株)村田製作所　トヨタ自動車(株)　アクセンチュア(株)　(株)LIXIL パナソニック　インフォメーションシステムズ(株)　大阪ガス(株)　(株)日立製作所　ナブテスコ(株) 三菱電機(株)　住友電工システムソリューション(株)　住友電気工業(株)　中部電力(株) ブラザー工業(株)
	住環境学専攻	国土交通省　香芝市　日本工営都市空間(株)　日産自動車(株)　(株)ライズクリエイション 京セラ(株)　(株)安井建築設計事務所　パナソニック(株)　近鉄不動産(株)　(株)オオバ タカラスペースデザイン(株)　(株)スタジオテラ　国立研究開発法人　産業技術総合研究所 日本工営都市空間(株)　(株)NTTファシリティーズ　住友林業(株)　積水ハウス(株)
	生活文化学専攻	日鉄物産(株)　京都大学　アクセンチュア(株)
	生活工学共同専攻	奈良県　神戸市　積水ハウス(株)　ミズノ(株)　パーソルクロステクノロジー(株)　レボックス(株) (株)フェリシモ　住友電気工業(株)
博士後期課程	数物科学専攻	大阪市立中央図書館　大阪府教育委員会　(株)キティランド　西日本旅客鉄道(株) NECソリューションイノベータ(株)　クツワ(株)　ローム(株)　旭化成(株)　京セラ(株) 東芝情報システム(株)　三菱電機(株)　(株)クボタ　ソニー(株)　住友電気工業(株) (株)日立ソリューションズ・クリエイト　AGC(株)　三菱重工業(株)　(株)アイシン　(株)ニコン 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構　(株)デンソー
	化学生物環境学専攻	京都市　新城市　大阪市　大阪女学院中学校・高等学校　阪本薬品工業(株)　ENEOS(株) (株)小糸製作所　NSファーファ・ジャパン(株)　(株)クボタ　日東電工(株)　住友電気工業(株) パナソニック　インダストリー(株)　ローム(株)　京セラ(株)　サカティンクス(株)　森下仁丹(株) (株)村田製作所　(株)NTTデータ関西　富士電機(株)　ダイキン工業(株)　アドバンテック(株) (一財)日本食品分析センター　三菱電機(株)　東京エレクトロン(株)　太陽ファルマテック(株) 西日本電信電話(株)　DMG森精機(株)　ダイハツ工業(株)　WDB(株)　(株)クリーク・アンド・リバー社 シスコシステムズ合同会社　TOA(株)　(株)ウェルアソシエイツ　(株)イー・エム・シー・ジャパン (株)科学情報システムズ
	社会生活環境学専攻	愛知産業大学　大手前大学
	共生自然科学専攻	日油(株)
	比較文化学専攻	(株)小学館集英社プロダクション
	人文科学専攻	(株)TEI
博士後期課程	生活環境科学専攻	国立研究開発法人　医薬基盤・健康・栄養研究所
	自然科学専攻	DMG森精機(株)

学位取得者の論文題目一覧 (2025 年 3 月修了者)

論 文 題 目	学位の種類 (専攻分野の名称)
ジェンダーから見た中国残留孤児	博士(文学)
園児・児童は幼小移行経験をどのように意味づけるのか —当事者の「小学生」になるという語りの分析—	博士(学術)
日本の地方におけるアニメツーリズムの展開とファン・地域の変化に関する研究 —複数地域を対象とした来訪者の意識と行動の比較研究—	博士(学術)
日本の「脱毛文化」にみるジェンダーポリティクス —表象から読み解く、不可視化された「プロパガンダ」構造—	博士(学術)
主成分分析のための陽的シフト付き Orthogonal Quotient-Difference 法の実装に関する研究	博士(情報科学)
X 線・中性子小角散乱を用いた界面活性剤単独系のミセルおよび レシチン混合系によるリポソームの構造解析に関する研究	博士(理学)
ドデカン酸カリウムとジグリセリン誘導体混合系の界面吸着に関する研究	博士(理学)
非増加関数に対する重み付き Hardy 型の不等式について	博士(理学)
Study of spatial variation of a recombining plasma in the supernova remnant W49B with the X-ray observatory (X 線天文衛星を用いた超新星残骸 W49B の再結合優勢プラズマの空間的変化の研究)	博士(理学)
ウェーブレット理論における関数の局所的特異性について	博士(理学)

在学者・修了者の声

在学者の声

【博士前期課程】

人間文化総合科学研究科 博士前期課程 数物科学専攻
物理学コース (2023 年 4 月入学)

物理学コースには、物性物理分野と素粒子原子核宇宙物理分野の2つの大きな分野があり、ミクロからマクロまで幅広い研究領域から、自分の興味に合わせて研究室を選ぶことができます。私は特に、身近な物質が引き起こす物理現象に強い興味があったことから物性物理学の理論を専門とする研究室に所属しています。

現在、私が取り組んでいる研究テーマは超伝導現象の起源解明です。この現象のメカニズムを解明するために、主にプログラミングを用いたシミュレーションを行い、データを解析しています。計算がうまくいかないこともあります。先生方の丁寧なご指導のもと、悩みながらも問題を解決する手がかりを見つけ、研究を進めています。また、学会に参加したり、他大学の先生方と交流を持ったりする機会があり、さまざまな人と意見を交わすことができるのも大きな魅力です。奈良女子大学は、真面目で明るい学生が多く、研究の合間にみんなでおしゃべりすることがとても良いリフレッシュになっています。

物理学の研究は挑戦的であり、常に新たな課題に直面しますが、それだけに発見や進展があったときの喜びは非常に大きいです。これからもさまざまな手法を駆使し、超伝導現象の本質に迫るための研究を続けていきたいと考えています。



在学者・修了者の声

在学者の声

【博士後期課程】

人間文化総合科学研究科 博士後期課程 自然科学専攻
化学生物環境学講座

私は本学の博士後期課程での学びを通じて、水田生態系における学習の連鎖が引き起こす間接効果について研究し、二年半で博士号を取得しました。

現在、国連サミットの「持続可能な開発目標(SDGs)」にもあるように、自然環境の保全や管理が重要視されています。環境問題を解決するためには、生態系の構造を解明することが不可欠です。生態系内では、ある生物種は他種と直接的な種間関係を持ち、また種間関係のネットワークを通して、一見何のかかわりもない種と間接的かつ相互に影響する間接効果を与えています。博士後期課程では、在来種のハシボソガラスが外来種のスキミングガイを捕食することによってイネに与える間接効果の重要性を解明しました。この研究成果は、カラスと貝の双方における学習が関与していると考えられ、外来種が新しい生態系に取り込まれる過程を考える上で重要な知見となると信じています。本学では、先生方からの丁寧な指導を受けながら、共に学ぶ学部生や院生との活発な議論を通じて、研究活動に没頭できる環境が整っていました。このような恵まれた環境で様々な生物の行動を観察し、先入観にとらわれない純粋な観察眼で生態学的現象を解き明かすことができたと思います。今後もこの経験を活かし、さらなる研究に邁進していきたいと考えています。



修了者の声

【博士前期課程】

人間文化総合科学研究科 博士前期課程 言語文化学専攻
ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース (2025年3月修了)

大学院への進学について考え始めたのは学部2回生の春休み頃でした。当時、院に在籍されていた先輩のお話を聞く機会があり、そこで大学院での専門的な研究に魅力を感じもう少し勉強したいと思い進学を決めました。私は本学の6年一貫教育プログラムを利用して進学したのですが、このプログラムがあったからこそ、学部で大学院の授業を先行履修でき、院ではアメリカへの長期留学にも行くことができました。学部の頃は想像もしていなかったことを経験することができた2年間だったように思います。大学院では「ほめ」の応答に注目して研究をしていました。最初は別のテーマで研究を進めていたのですが、留学先のアメリカで現地の方のほめ方や応答の仕方が日本人のそれと違うように感じて興味を持ち、帰国後に研究テーマを変更し改めて研究を始めました。何度も親身に指導してくださった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

大学院には学部の時以上に、自分が興味を持ったことに対して真剣に向き合うことができる環境があります。また日々の授業や研究発表のなかで、先生方や院生同士で議論をする場が多く、より深く研究を進めていくことができました。これからの人生においても、大学院生活で培われた粘り強さと探究心を持って、様々なことに臨んでいきたいと思っています。



【博士後期課程】

人間文化総合科学研究科 博士後期課程 生活工学共同専攻
生活工学共同専攻 (2025年3月修了)

私は40代で、2人の子どもを育てながら研究に取り組む社会人学生です。ヒト脳科学に興味を持ち、岡崎国立共同研究機構生理学研究所の先生に相談したことがきっかけで、奈良女大学大学院人間文化総合科学研究科生活工学共同専攻に入学しました。本専攻には、生体医工学、生理学、運動学、認知神経科学、生体力学など、幅広い分野に精通した教員が揃っています。そのため、研究テーマの設定から実験の遂行、データ分析まで、各分野の専門家から惜しみないサポートを受けられることが大きな魅力です。

私は女性の健康寿命の延伸とQOL向上を目的に、更年期症状の程度別に、認知的能力(実行機能や抑制制御など)と非認知的要因(自動思考や神経症傾向など)の関連を、脳波測定、脳血流測定、心電図を用いた認知神経科学的手法で研究しています。本学には生理学研究所のようにMRIを複数台備える大規模な施設ではありませんが、脳波計や脳血流計、NIRS、エコーなどの研究機材が充実しており、ヒト脳科学の実験環境として十分な設備が整っています。また、少人数教育のため、それを補うほどの専門知識と技術を持つ先生方の指導のもと、質の高い研究を進めることができます。同じように学びを深めたい方々に、本専攻の魅力をぜひ伝えたいと思います。



入試情報 <https://www.nara-wu.ac.jp/entrance.html>

奈良女子大学大学院に関する情報について、ホームページから確認することができます。学生募集要項のダウンロード、入学者選抜状況や過去問題も掲載しています。最新の入試情報はホームページに掲載しますので、必ずホームページをご確認ください。



資料請求 <https://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/nyusi4.html>

大学院案内や学生募集要項を請求できます。大学院博士前期課程及び生活工学共同専攻（博士後期課程）を志願される方は、学生募集要項が必要となります。



大学院個別相談会 <https://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/open.html>

指導を希望する教員と入学後の研究内容について、相談ができます。令和7年度は2回開催を予定していますので、是非ご参加ください。



令和7年度個別相談会日程（事前申込制）

第1回目 令和7年5月19日（月）～5月23日（金） **第2回目** 令和7年10月27日（月）～10月30日（木）

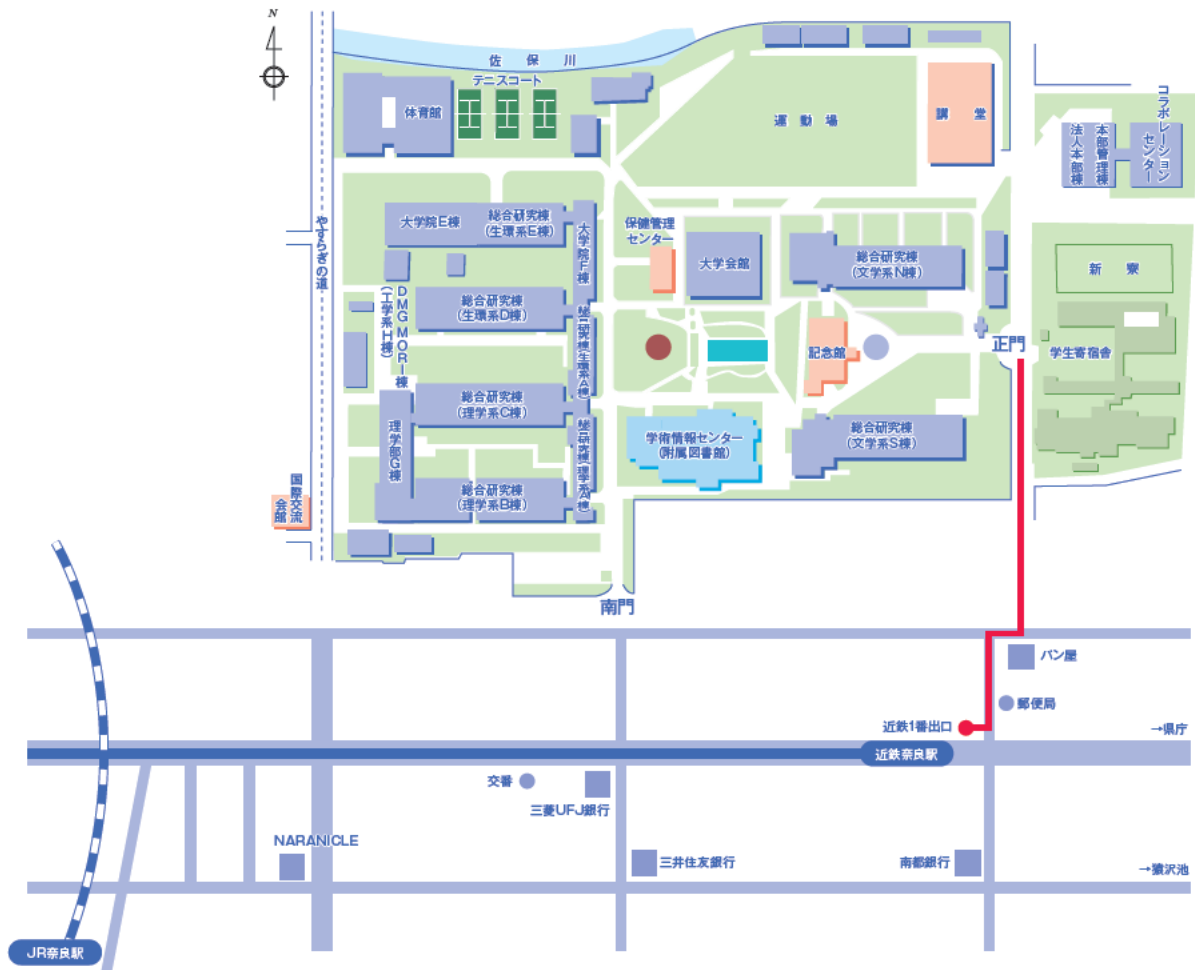
令和7年度 入学者選抜状況 過去の入学者選抜状況はホームページでも確認できます。

博士前期課程

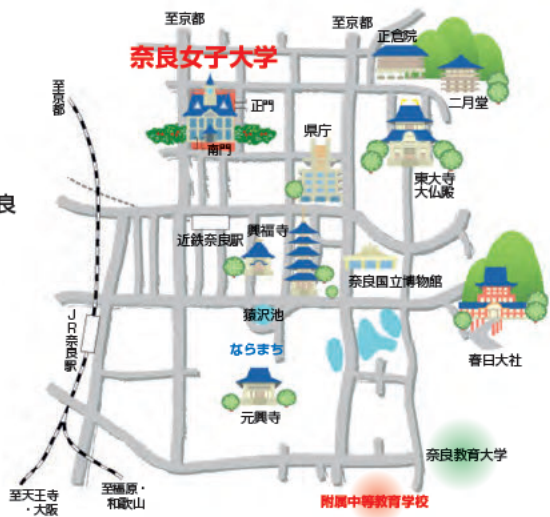
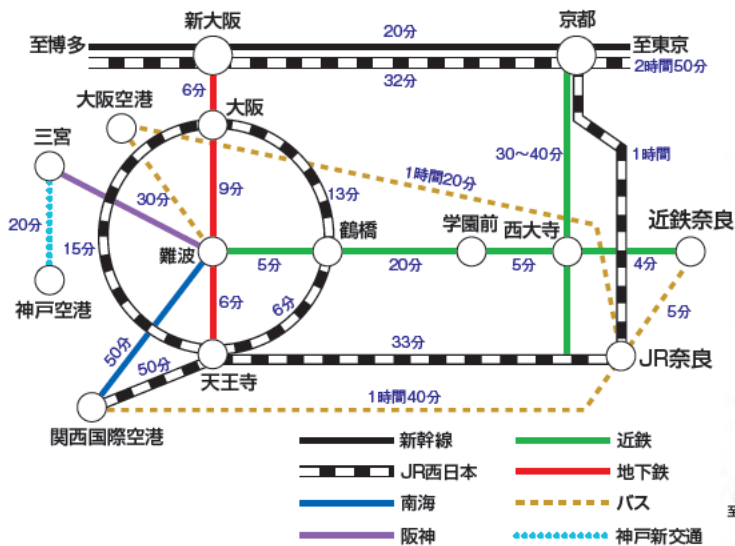
博士前期課程		募集人員	一般選抜				社会人特別選抜				外国人留学生特別選抜				推薦選抜				6年一貫特別選抜				合 計			
志願者	受験者		合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者		
専攻	コース																									
人文社会学専攻	歴史学コース	24	11	11	7	6	0	0	0	0	1	0	0	0					3	3	3	3	15	14	10	9
	地理学コース		3	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0					1	1	1	1	4	4	3	3
	社会学コース		2	2	1	0	0	0	0	0	18	15	8	5					0	0	0	0	20	17	9	5
	専攻計		16	16	10	8	0	0	0	0	19	15	8	5					4	4	4	4	39	35	22	17
言語文化学専攻	日本アジア言語文化学コース	18	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	1	1					1	1	1	1	4	4	2	2
	ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース		3	3	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0					1	1	1	1	4	4	4	3
	専攻計		3	3	3	2	0	0	0	0	3	3	1	1					2	2	2	2	8	8	6	5
人間科学専攻	教育学・人間学コース	12	1	1	1	1	1	0	0	3	2	1	0					0	0	0	0	5	4	2	1	
	心理学コース		13	13	8	8	0	0	0	0	3	2	0	0					2	2	2	2	18	17	10	10
	専攻計		14	14	9	9	1	1	0	0	6	4	1	0					2	2	2	2	23	21	12	11
食物栄養学専攻		13	6	6	6	4	0	0	0	0	0	0	0					5	5	5	3	11	11	11	7	
心身健康学専攻	生活健康学コース	22	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0					1	1	1	1	2	2	2	2	
	臨床心理学コース		26	25	7	5	2	2	1	1	3	3	1	1					4	4	4	4	35	34	13	11
	スポーツ科学コース		2	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0					1	1	1	1	3	3	3	2
	専攻計		29	28	10	7	2	2	1	1	3	3	1	1					6	6	6	6	40	39	18	15
情報衣環境学専攻	衣環境学コース	10	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0					0	0	0	0	1	1	1	1	
	生活情報通信科学コース		1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	10	10	2	2	2	2	13	13	13	13
	専攻計		2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	10	10	2	2	2	2	14	14	14	14
生活工学共同専攻		7	6	6	6	6	0	0	0	0	0	0	0					3	3	3	3	9	9	9	9	
住環境学専攻		13	12	12	12	11	0	0	0	0	2	2	1	1					9	9	9	7	23	23	22	19
生活文化学専攻		9	6	6	6	4	0	0	0	0	0	0	0					2	2	2	2	8	8	8	6	
数物科学専攻	数学コース	28	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	8	7	7	7	
	物理学コース		20	20	16	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	6	6	26	26	22	21
	数物連携コース		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
	専攻計		22	21	17	16	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	10	10	10	10	35	34	30	29
化学生物環境学専攻	化学コース	42	22	22	18	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	6	6	28	28	24	19	
	生物科学コース		6	5	5	5	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	8	8	8	8	16	15	15	15
	環境科学コース		7	7	7	6	0	0	0	0	1	1	1	1	2	2	2	2	5	5	5	5	15	15	15	14
	専攻計		35	34	30	24	0	0	0	0	2	2	2	2	3	3	3	3	19	19	19	19	59	58	54	48
合 計		198	151	148	111	93	3	3	1	1	35	29	14	10	16	16	16	16	64	64	64	60	269	260	206	180

博士後期課程

専攻名	講座名	募集人員	一般選抜				社会人特別選抜				外国人留学生特別選抜				合計			
			出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者
人文科学専攻	比較文化学講座	12	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
	社会人間学講座		3	3	3	3	3	3	2	2	0	0	0	0	6	6	5	5
	専攻計		3	3	3	3	3	3	2	2	1	1	1	1	7	7	6	6
生活環境科学専攻	食物栄養学講座	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	心身健康学講座		1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
	情報環境学講座		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	住環境学講座		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	3	3	3	2
	生活文化学講座		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	専攻計		2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	0	4	4	4	3
自然科学専攻	数物科学講座	10	5	5	5	5	1	1	1	1	0	0	0	0	6	6	6	6
	化学生物環境学講座		2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2
	専攻計		7	7	7	7	1	1	1	1	0	0	0	0	8	8	8	8
生活工学共同専攻		2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0
計		38	13	13	13	12	5	5	4	4	2	2	2	1	20	20	19	17



交通アクセス



- | | |
|--|--|
| <p>京都から</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 近鉄京都線で近鉄奈良まで特急約35分、急行45分＋徒歩約5分 | <p>大阪空港から</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空港バスでJR奈良まで約80分＋近鉄奈良までバス約5分＋徒歩約5分 ● 空港バスで難波へ、近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約70分＋徒歩約5分 |
| <p>新大阪から</p> <ul style="list-style-type: none"> ● JR東海道本線で大阪駅へ、JR大阪環状線(外回り)で鶴橋へ、近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約60分＋徒歩約5分 | <p>関西国際空港から</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空港バスでJR奈良まで約100分＋近鉄奈良までバス約5分＋徒歩約5分 ● 南海空港急行で難波へ、近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約110分＋徒歩約5分 |
| <p>大阪から</p> <ul style="list-style-type: none"> ● JR大阪環状線(外回り)で鶴橋へ、近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約50分＋徒歩約5分 | <p>三宮から</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 阪神なんば線・近鉄奈良線(快急)で近鉄奈良まで約80分＋徒歩約5分 |
| <p>難波から</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約35分＋徒歩約5分 | <p>神戸空港から</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 神戸新交通ポートアイランド線で三宮へ、阪神なんば線・近鉄奈良線(快急)で近鉄奈良まで約100分＋徒歩5分 |
| <p>天王寺から</p> <ul style="list-style-type: none"> ● JR大和路快速でJR奈良駅まで約30分＋バス5分＋徒歩約5分 ● JR大阪環状線(内回り)で鶴橋へ、近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約45分＋徒歩約5分 | |